

第2章 調査結果

第 2 章 調査結果

男女平等に関する意識について

問1 あなたは、次の①～⑧において、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(各項目1つだけ選択)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	平等になっ ている	どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる
①家庭生活の中で	1	2	3	4	5
②職場の中で	1	2	3	4	5
③学校教育の場で	1	2	3	4	5
④地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5
⑤政治や政策方針決定の場で	1	2	3	4	5
⑥法律や制度の上で	1	2	3	4	5
⑦社会通念・慣習・しきたりなど で	1	2	3	4	5
⑧社会全体の中で	1	2	3	4	5

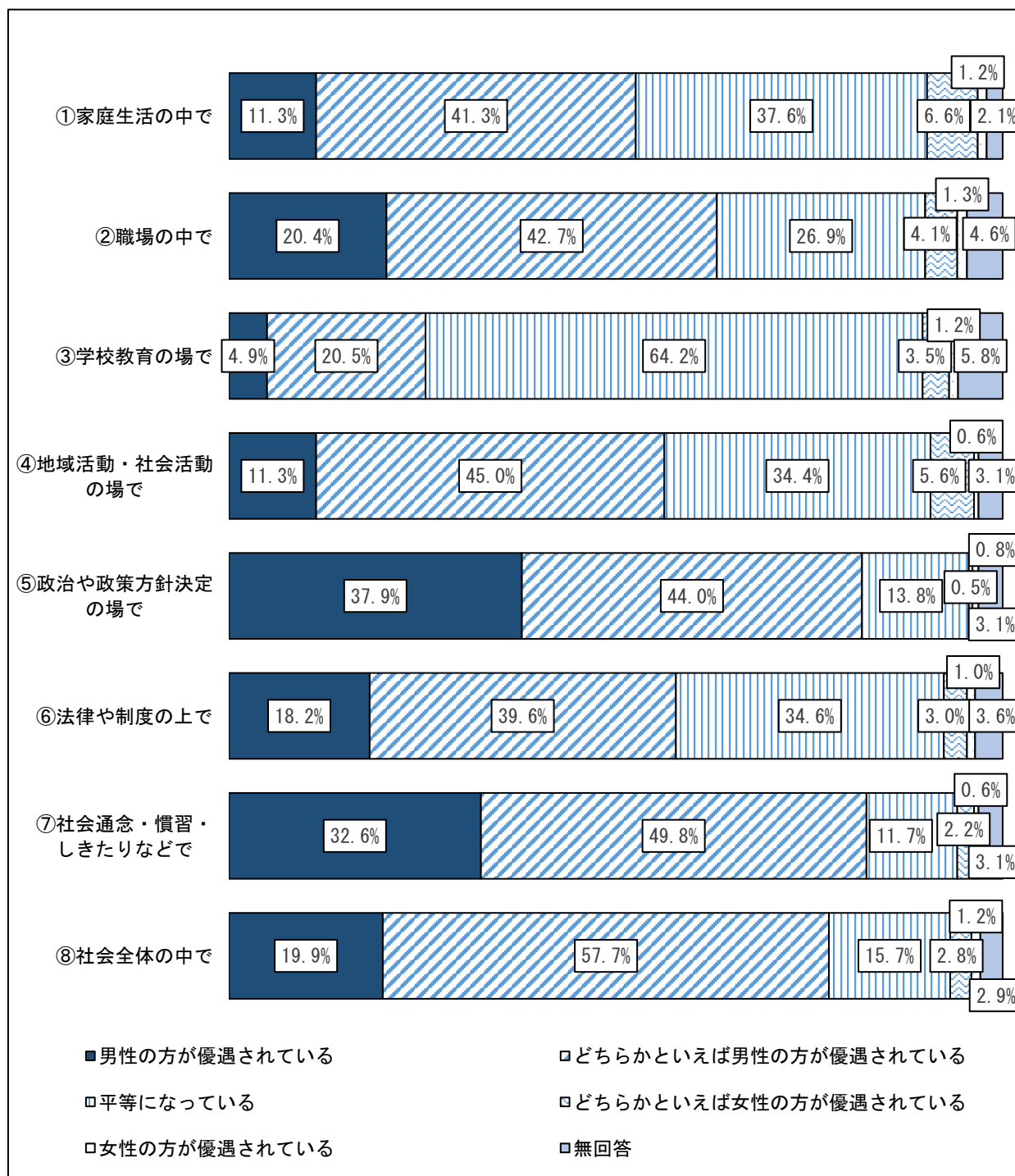
「平等になっている」の回答が最も多かったのは「③学校教育の場で」の64.2%

全体で「平等になっている」との回答が最も多かったのは、「③学校教育の場で」64.2%でした。また、最も少なかったのは「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」11.7%でした。性別ごとの回答でも同様となっています。

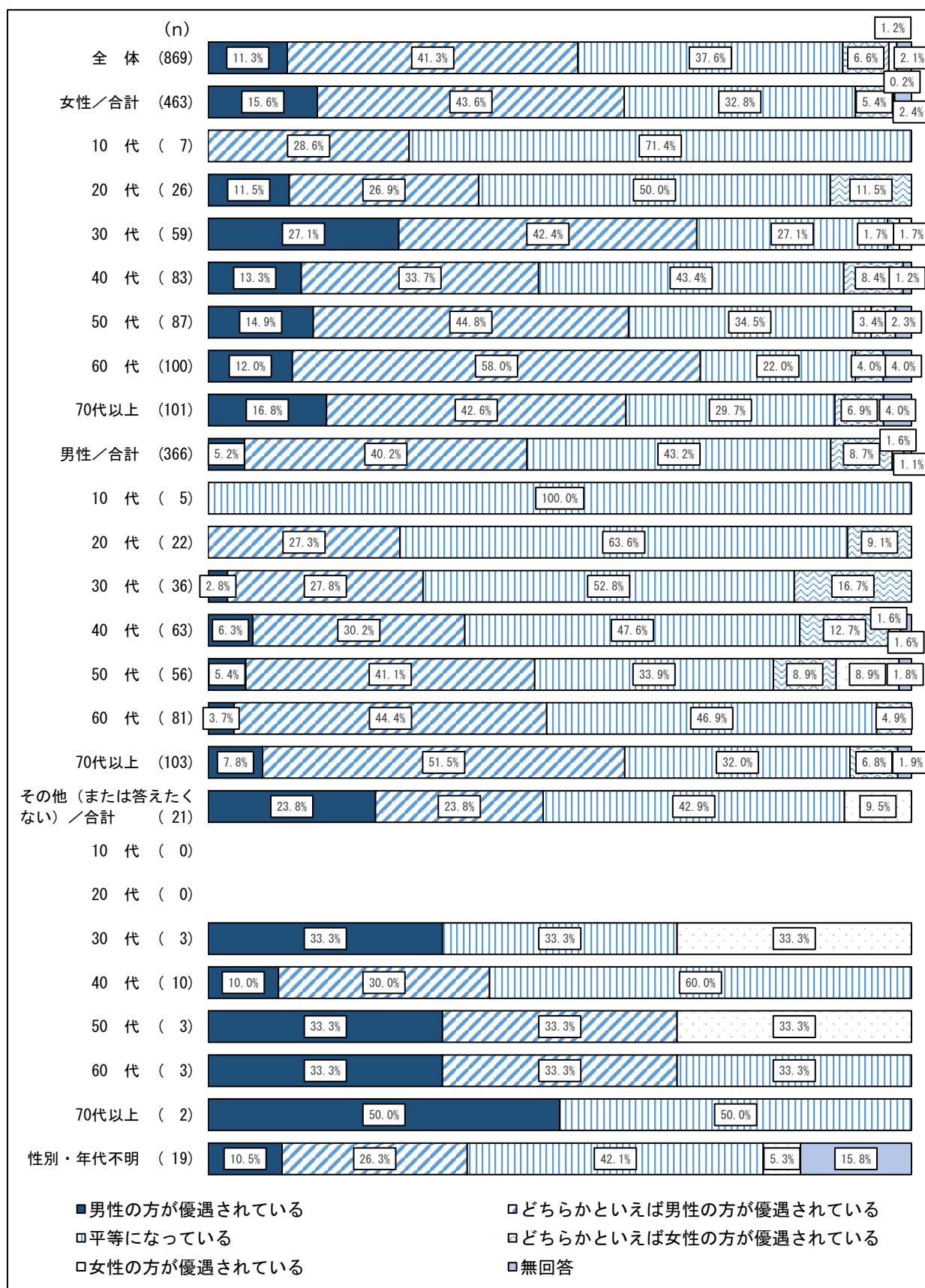
項目別に見ると「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が最も多かったのは、「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」ですが、性・年代別では、男性の20代、30代では「平等になっている」との回答が25%を超えています。

性・年代別で見ると、「①家庭生活の中で」では、20代から70代以上の女性が「男性の方が優遇されている」と回答している割合が多く、女性の方が男性より10.4ポイント上回っています。また、「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」で「男性の方が優遇されている」と回答した30代の女性と男性では、女性の方が27.5ポイント上回っています。

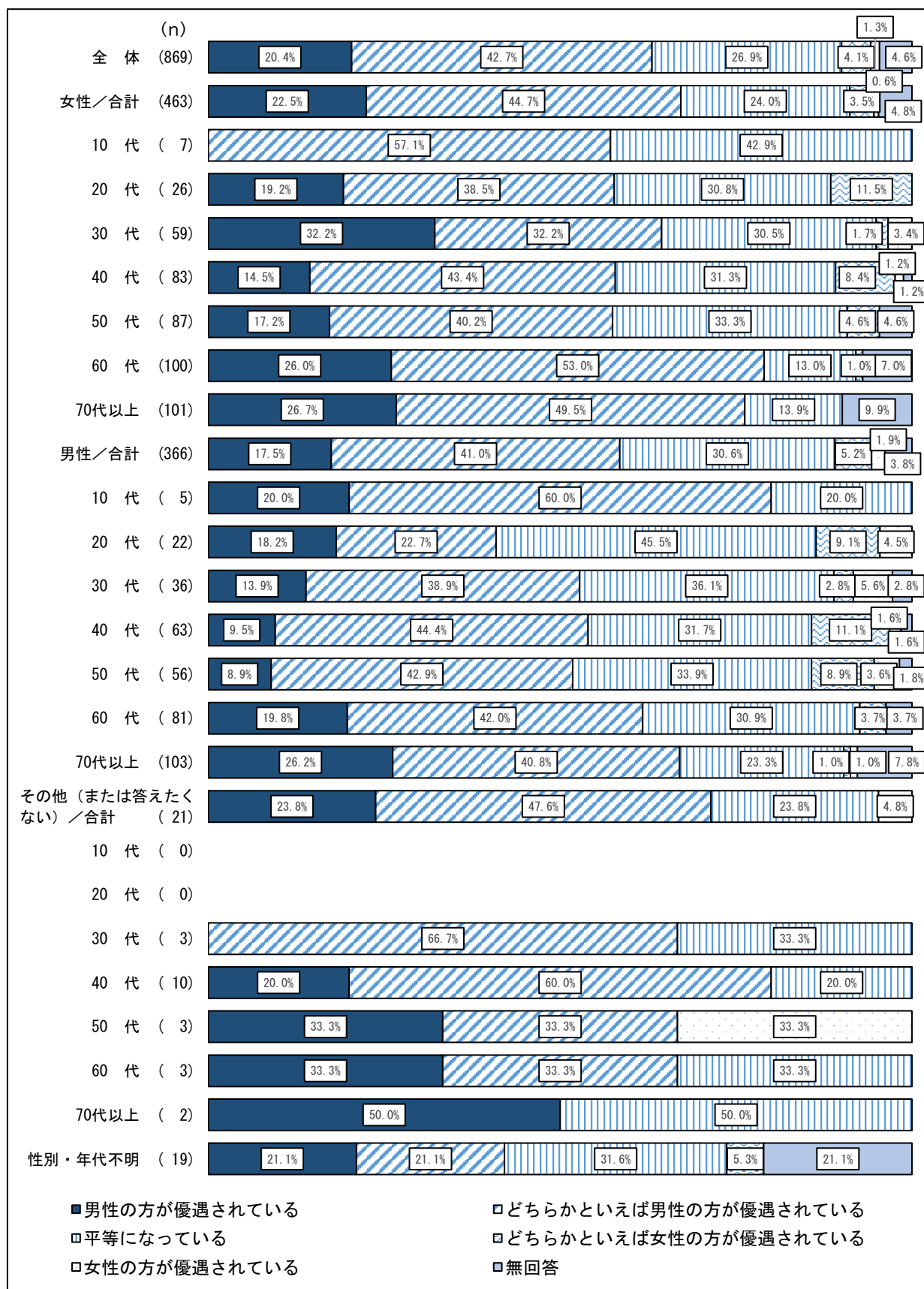
【全体】 n=869



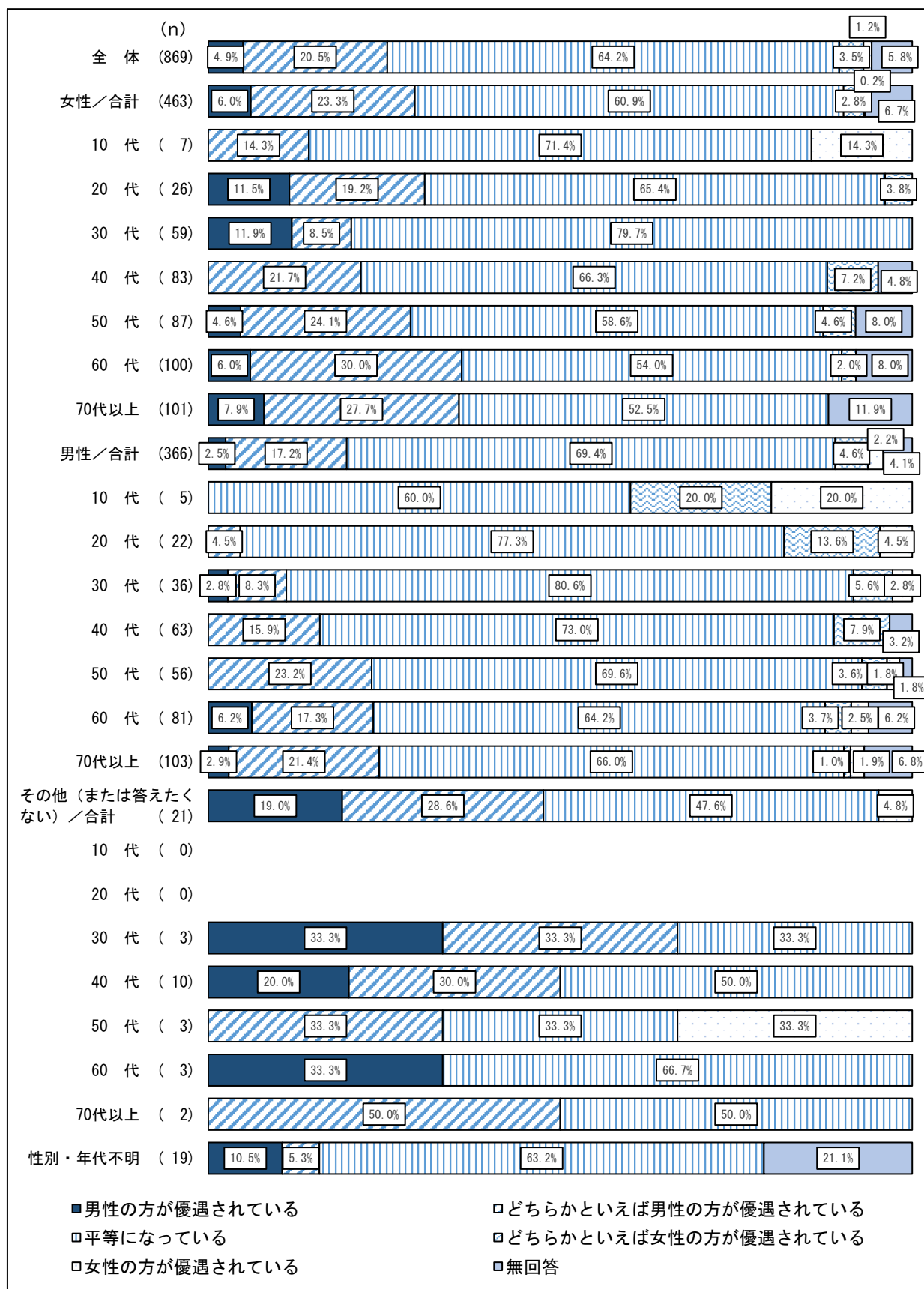
【性・年代別】①家庭生活の中で



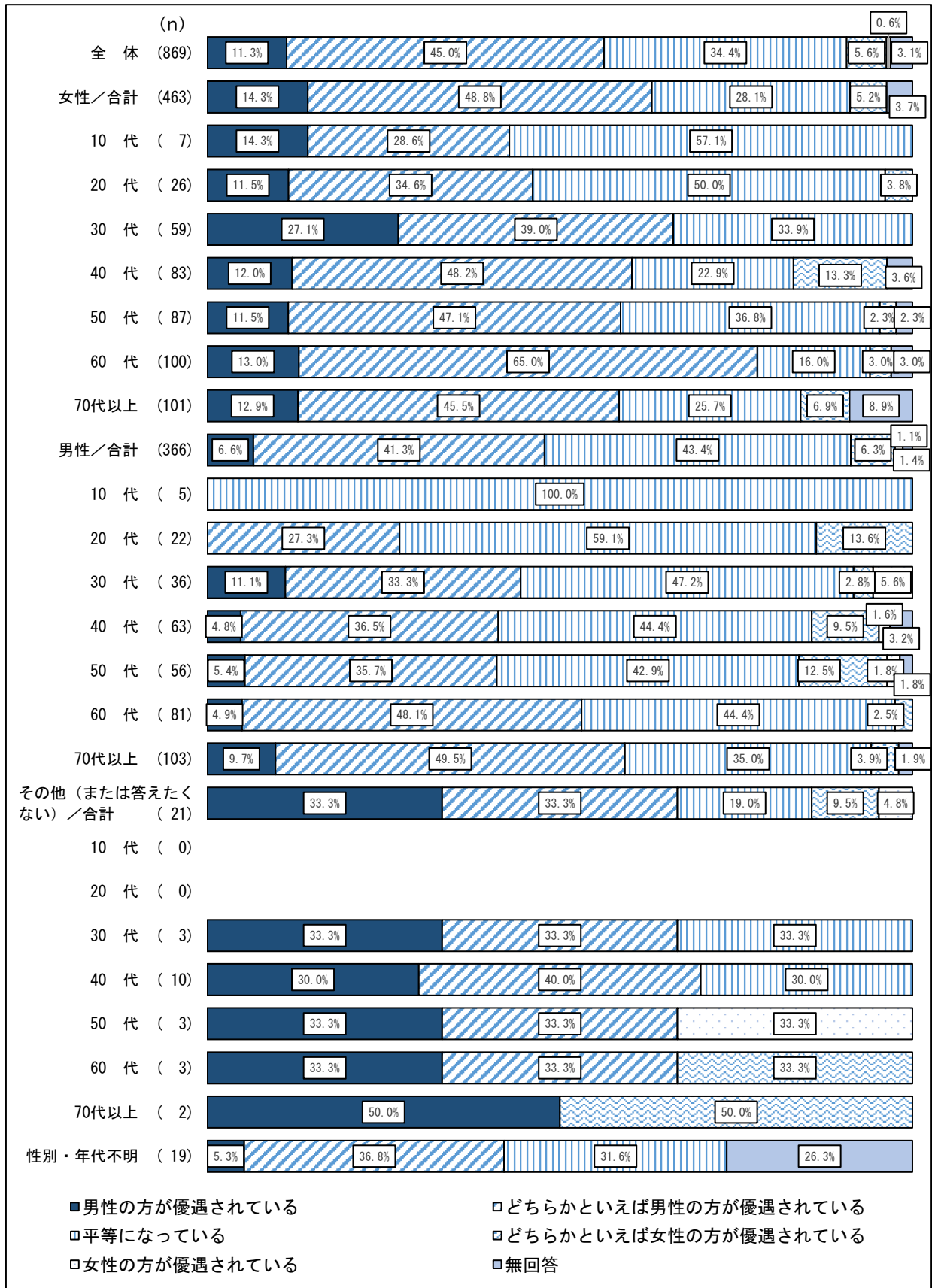
【性・年代別】②職場の中で



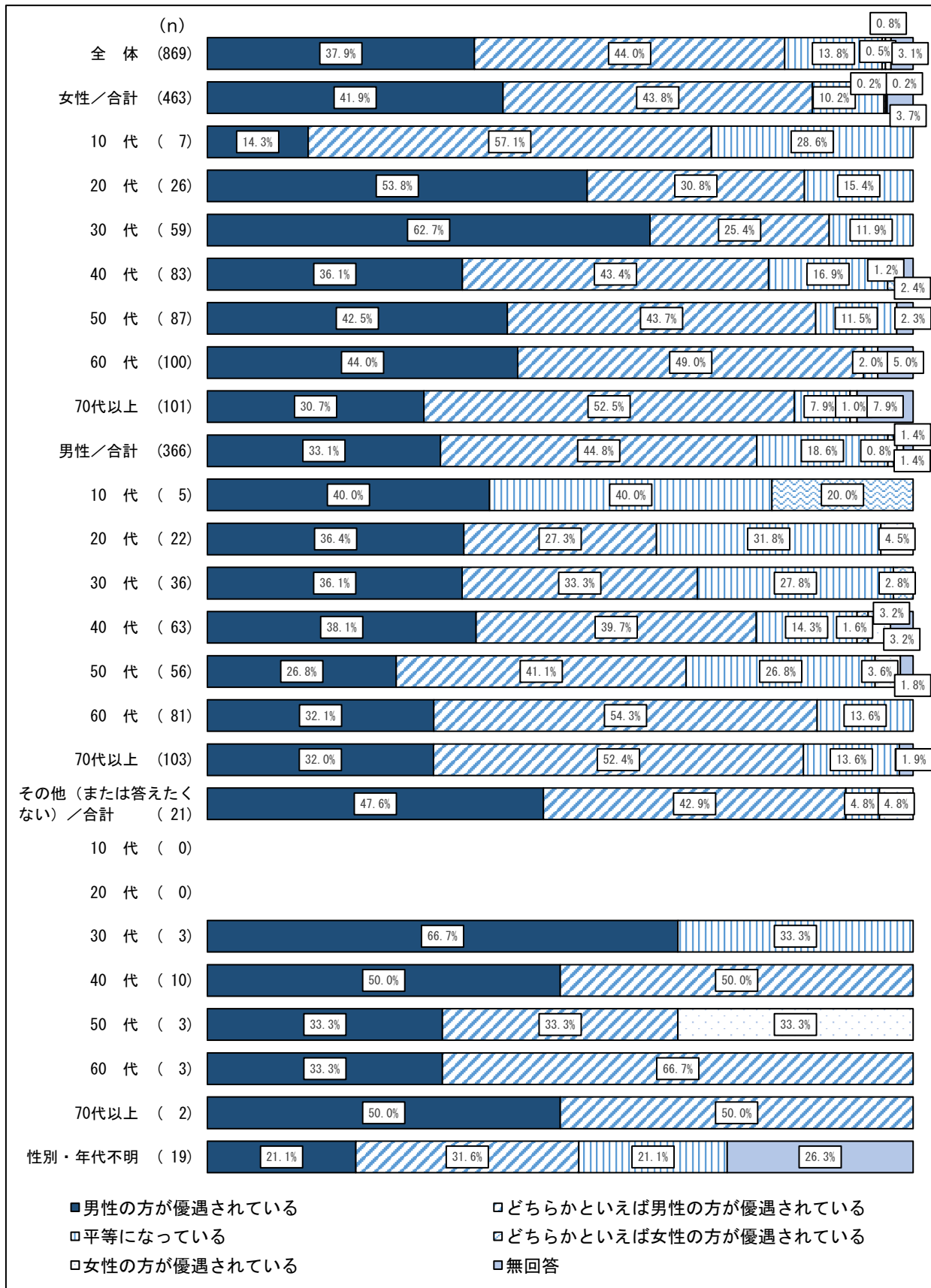
【性・年代別】③学校教育の場で



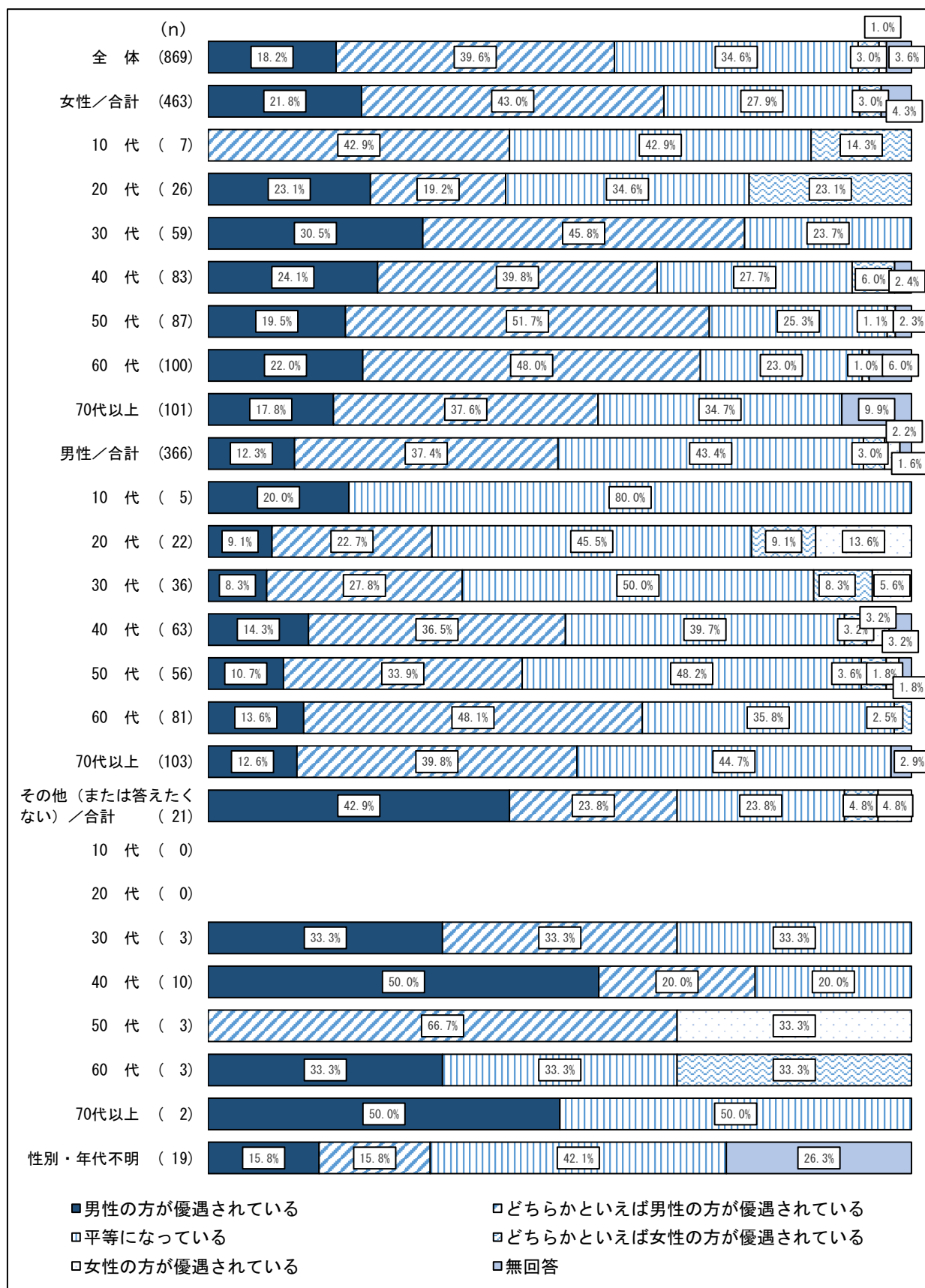
【性・年代別】④地域活動・社会活動の場で



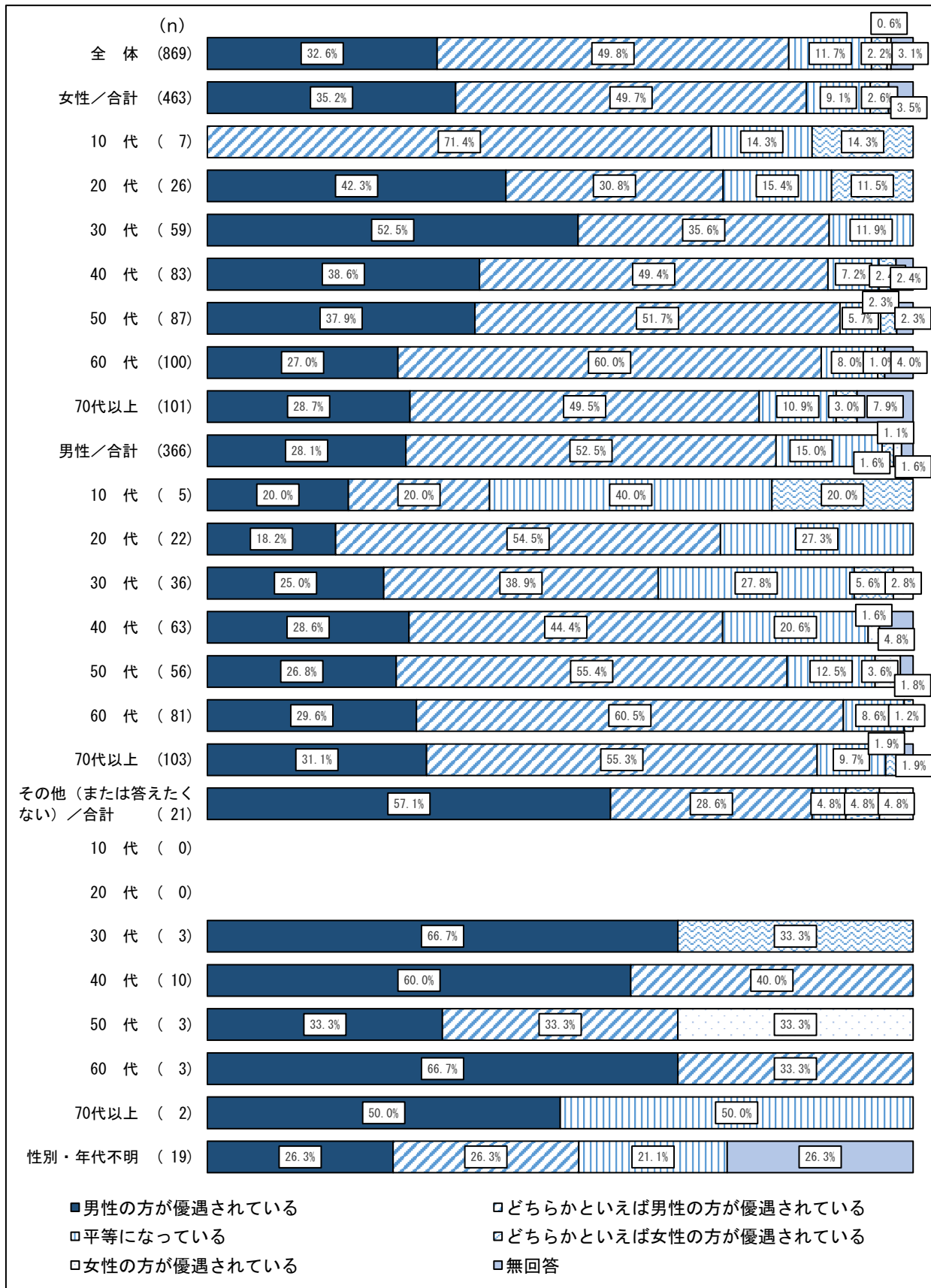
【性・年代別】⑤政治や政策方針決定の場で



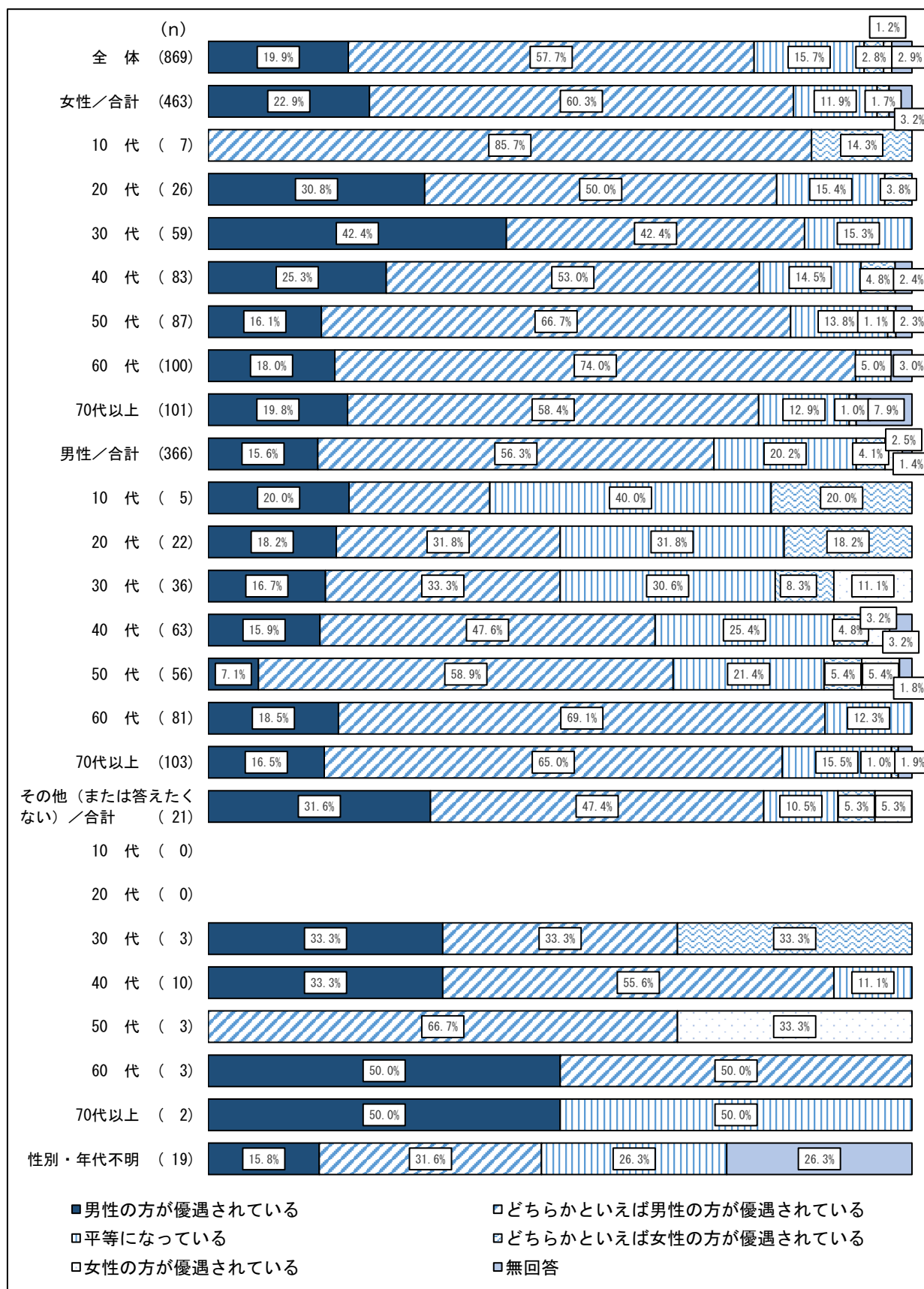
【性・年代別】⑥法律や制度の上で



【性・年代別】⑦社会通念・慣習・しきたりなどで



【性・年代別】⑧社会全体の中で



男女平等に関する意識について

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(1つだけ選択)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 賛成 | 4. 反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. わからない(どちらともいえない) |
| 3. どちらかといえば反対 | |

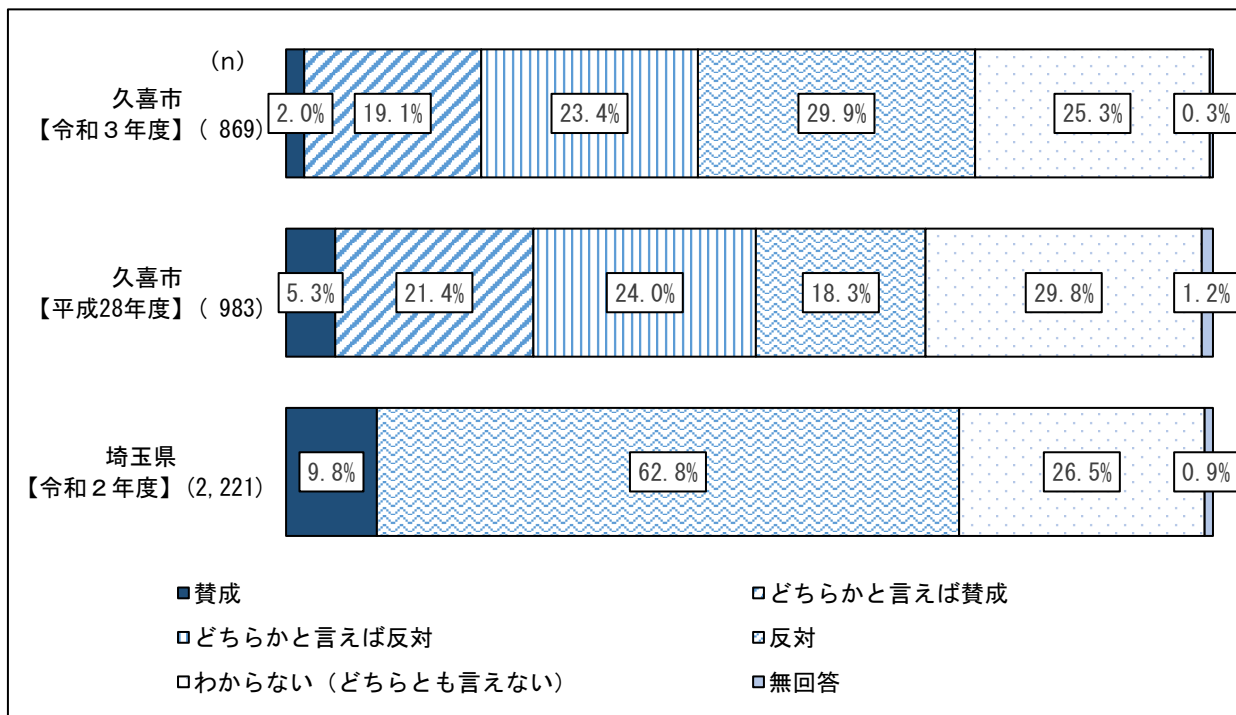
「反対」、「どちらかといえば反対」が53.3%

全体では、「反対」が29.9%と最も多く、次いで「わからない(どちらとも言えない)」が25.3%の順となっています。男女別でみると、男性では同じ順、女性では「反対」に次いで「どちらかといえば反対」が27.2%と2番目に多くなっています。

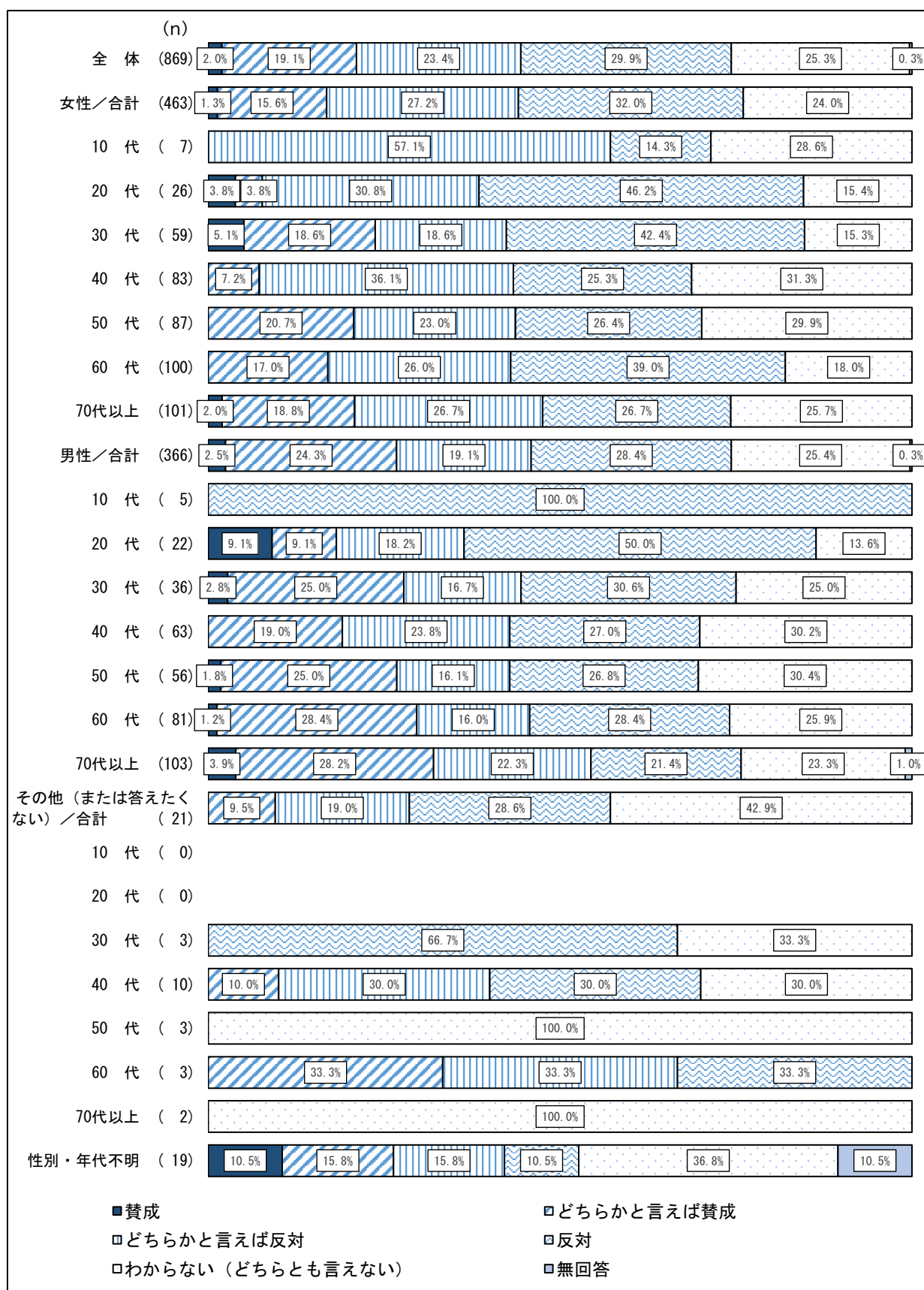
全体において、「反対」、「どちらかといえば反対」の合計は53.3%となっています。平成28年度調査での合計42.3%から11ポイント増加しています。

性・年代別では、「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が10代から30代の男女とも多くなっています。「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合は、60代以上の男性に多くなっています。

【全体・経年比較】



【性・年代別】



男女平等に関する意識について

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野でさらに平等になるために、最も重要だと思うことは何ですか。（1つだけ選択）

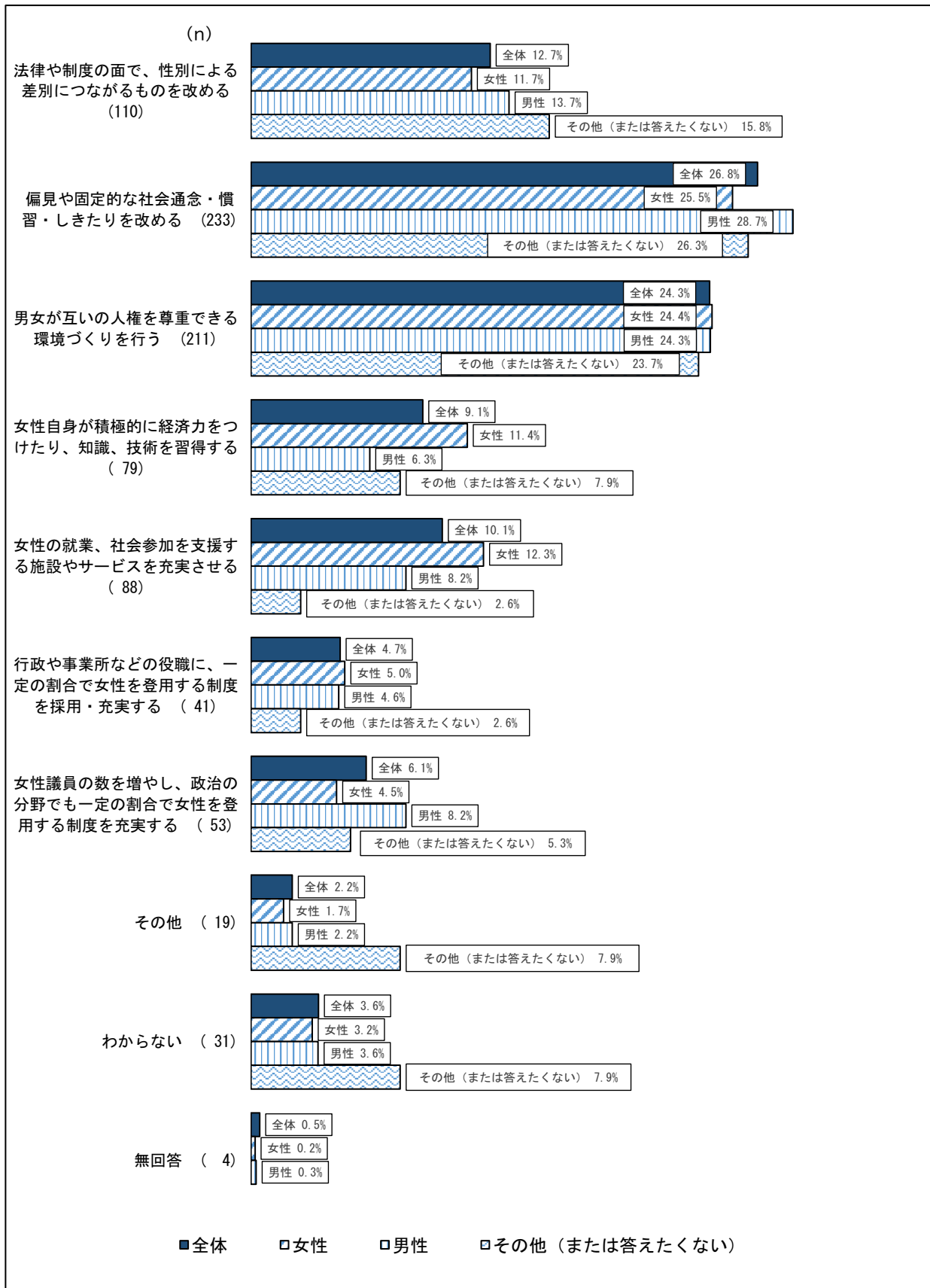
1. 法律や制度の面で、性別による差別につながるものを改める
2. 偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める
3. 男女が互いの人権を尊重できる環境づくりを行う
4. 女性自身が積極的に経済力をつけたり、知識、技術を習得する
5. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
6. 行政や事業所などの役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する
7. 女性議員の数を増やし、政治の分野でも一定の割合で女性を登用する制度を充実する
8. その他(具体的に:)
9. わからない

「偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める」が26.8%

全体では、「偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める」の回答が26.8%で最も多く、次いで「男女が互いの人権を尊重できる環境づくりを行う」の24.3%となっています。

性別で見ると、男女ともに「偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める」の回答が最も多く、女性25.5%、男性28.7%でした。次いで「男女が互いの人権を尊重できる環境づくりを行う」は、女性24.4%、男性24.3%でした。「女性自身が積極的に経済力をつけたり、知識、技術を習得する」では、男女差が最も大きく、女性11.4%に対し、男性6.3%で5.1ポイント差となっています。

【全体・性別比較】 n=869



その他回答 (記述分)

ベーシックインカムの導入と育休産休の自由度をあげること (男女ともに) (1)、機会の平等が重要と考える (1)、政治・社会・教育すべての考え方および慣習を改める (1)

家庭生活や地域活動について

問4 あなたの家庭では、次の①～⑥のことについて、主にどなたが担当されていますか。（各項目1つだけ選択）

	主として男性	主として女性	共同して分担	その他・該当しない
①家事（炊事・洗濯・掃除など）	1	2	3	4
②子育て（子どもの世話・教育など）	1	2	3	4
③親や家族の介護	1	2	3	4
④家計の管理	1	2	3	4
⑤自治会などの地域活動やPTA活動	1	2	3	4
⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定	1	2	3	4

「主として女性」との回答が最も多かったのは、「①家事（炊事・洗濯・掃除など）」70.5%

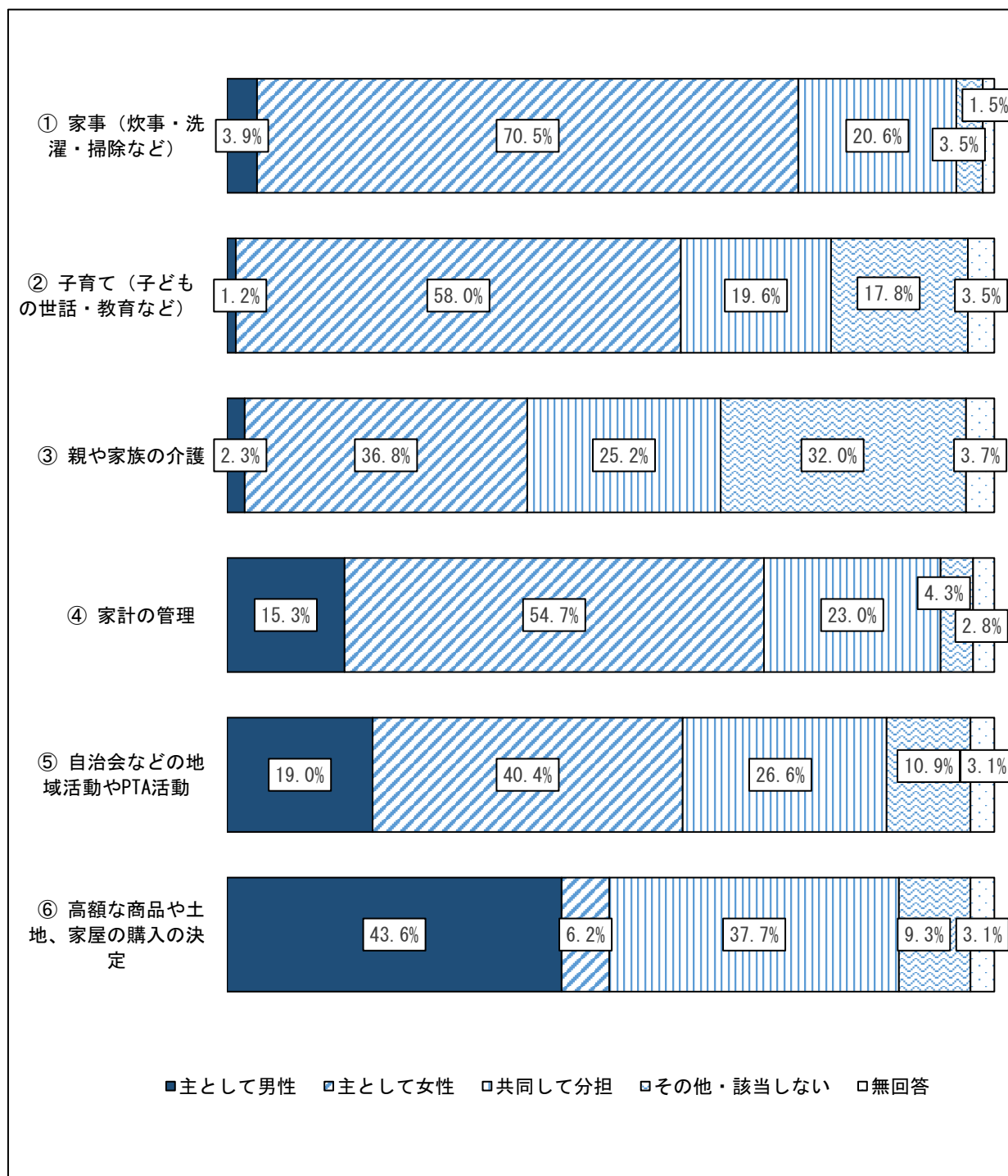
全体として、「主として女性」の回答が最も多かったのは、「①家事（炊事・洗濯・掃除など）」70.5%で、次いで「②子育て（子どもの世話・教育など）」58.0%となっています。

全体として、「主として男性」の回答が最も多かったのは、「⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定」43.6%で、次いで「⑤自治会などの地域活動やPTA活動」19.0%となっています。

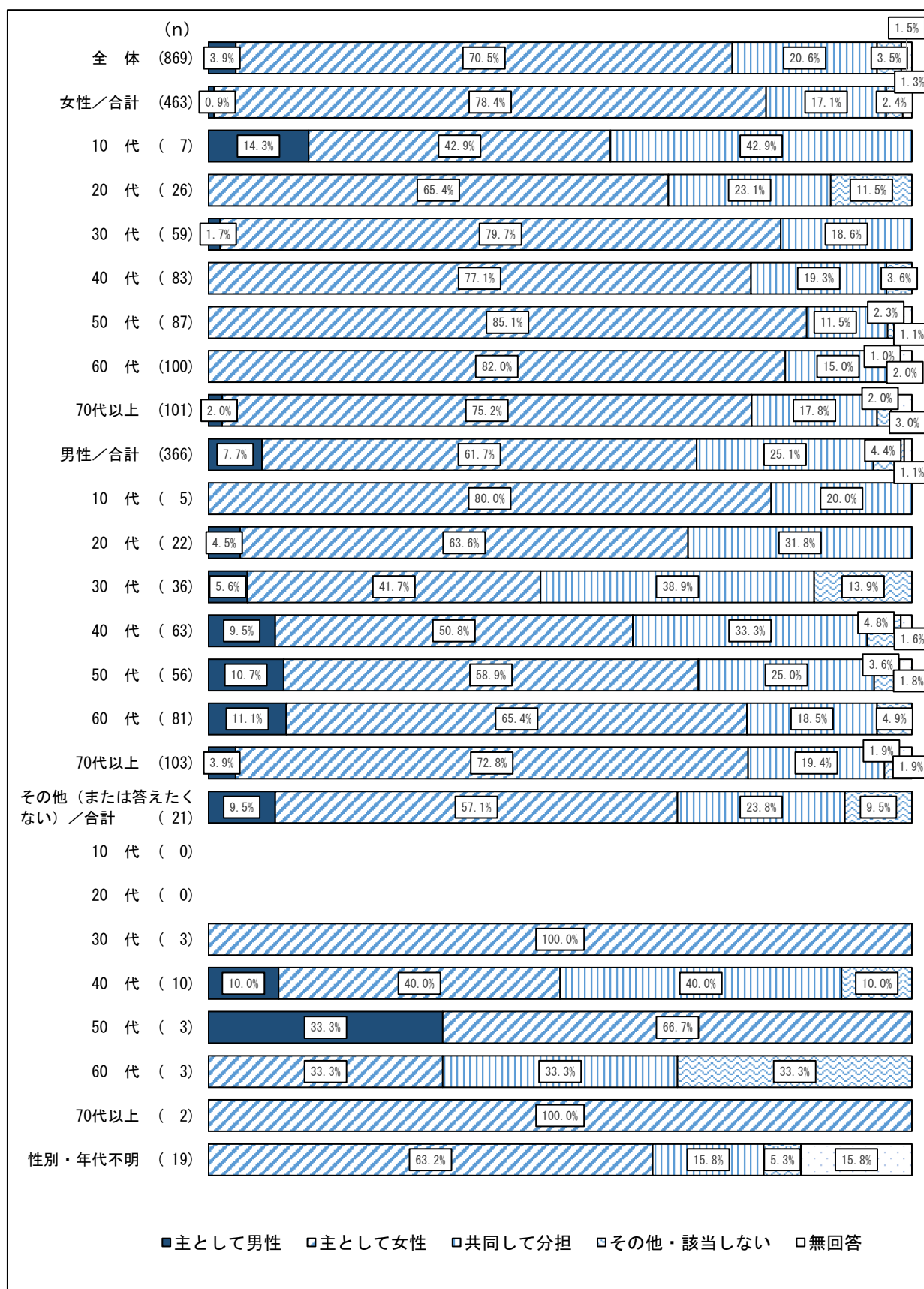
全体として、「共同して分担」の回答が最も多かったのは、「⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定」37.7%で、次いで「⑤自治会などの地域活動やPTA活動」26.6%となっています。

性・年代別で見ると「②子育て（子どもの世話・教育など）」では、女性のうち20代を除く世代で「主として女性」が最も多く、男性の20代と30代では「共同して分担」が最も多くなっています。

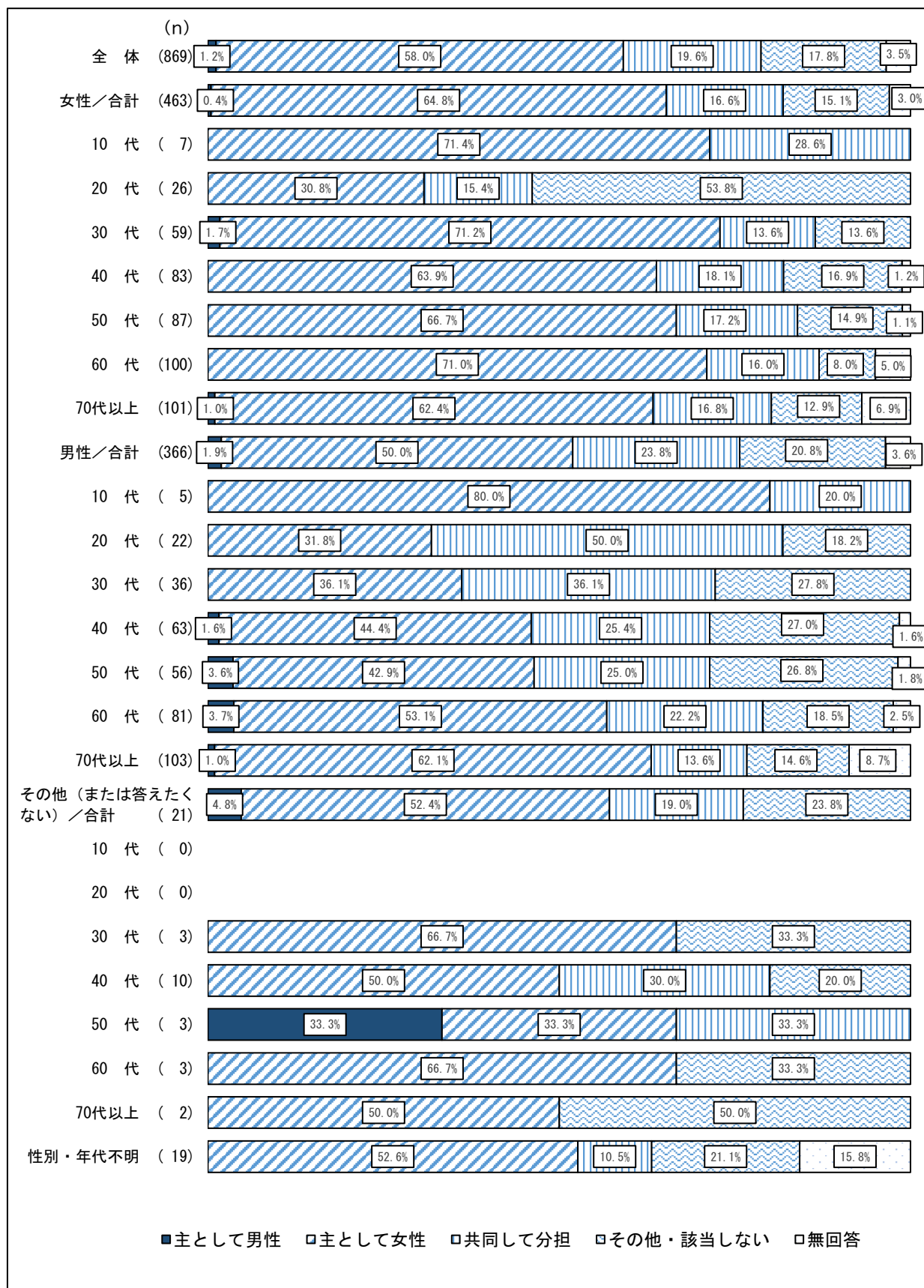
【全体】 n=869



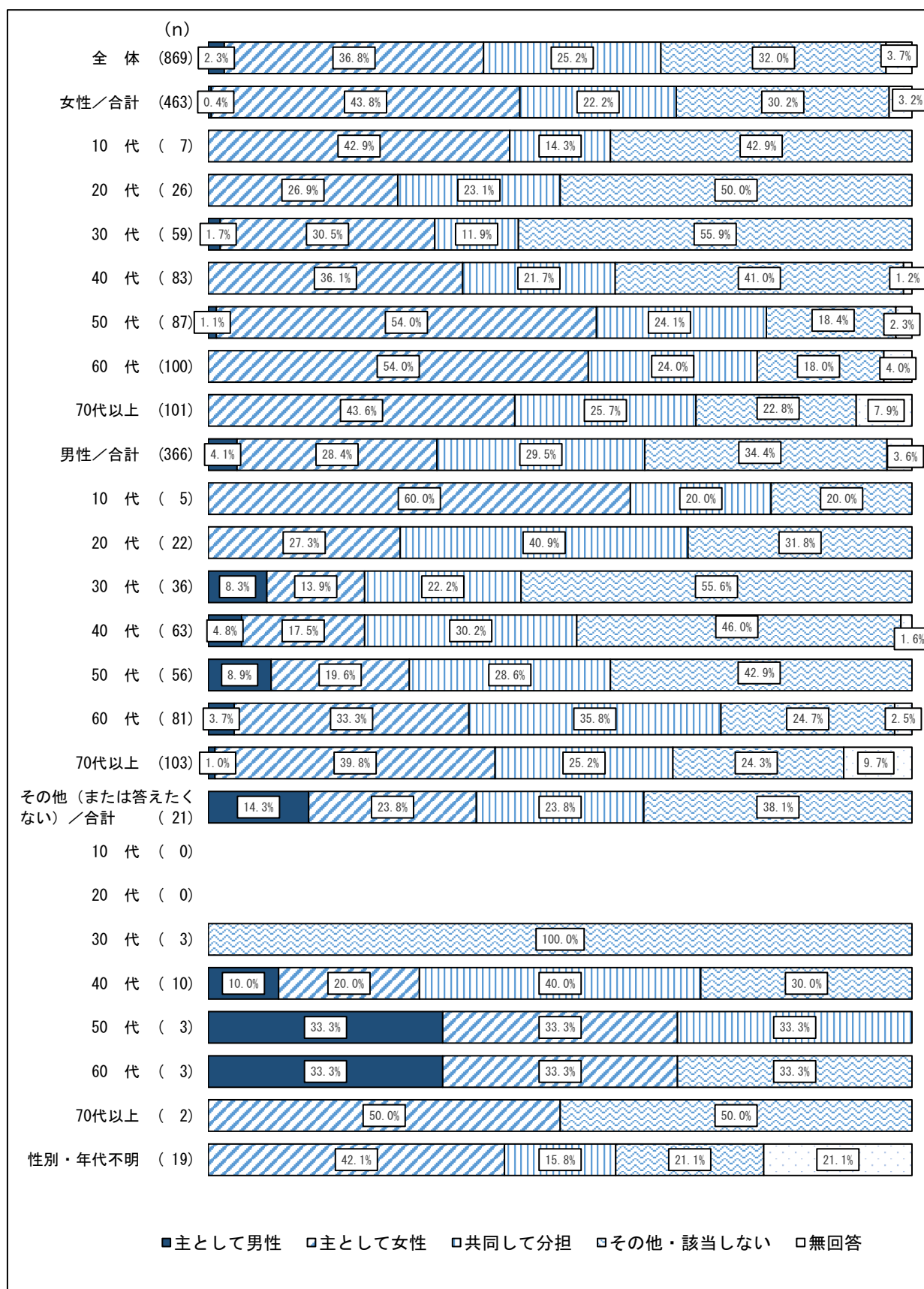
【性・年代別】①家事（炊事・洗濯・掃除など）



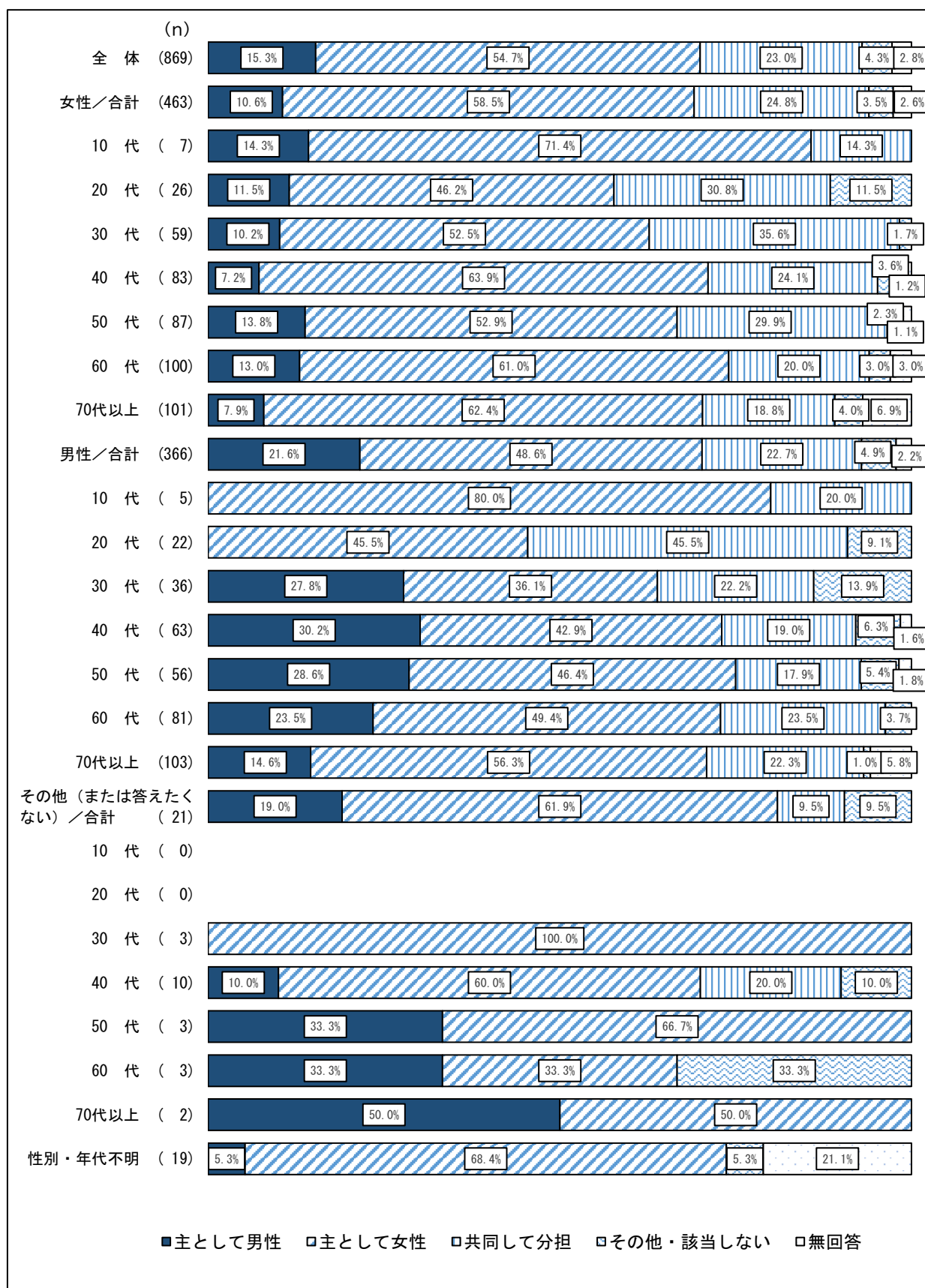
【性・年代別】②子育て（子どもの世話・教育など）



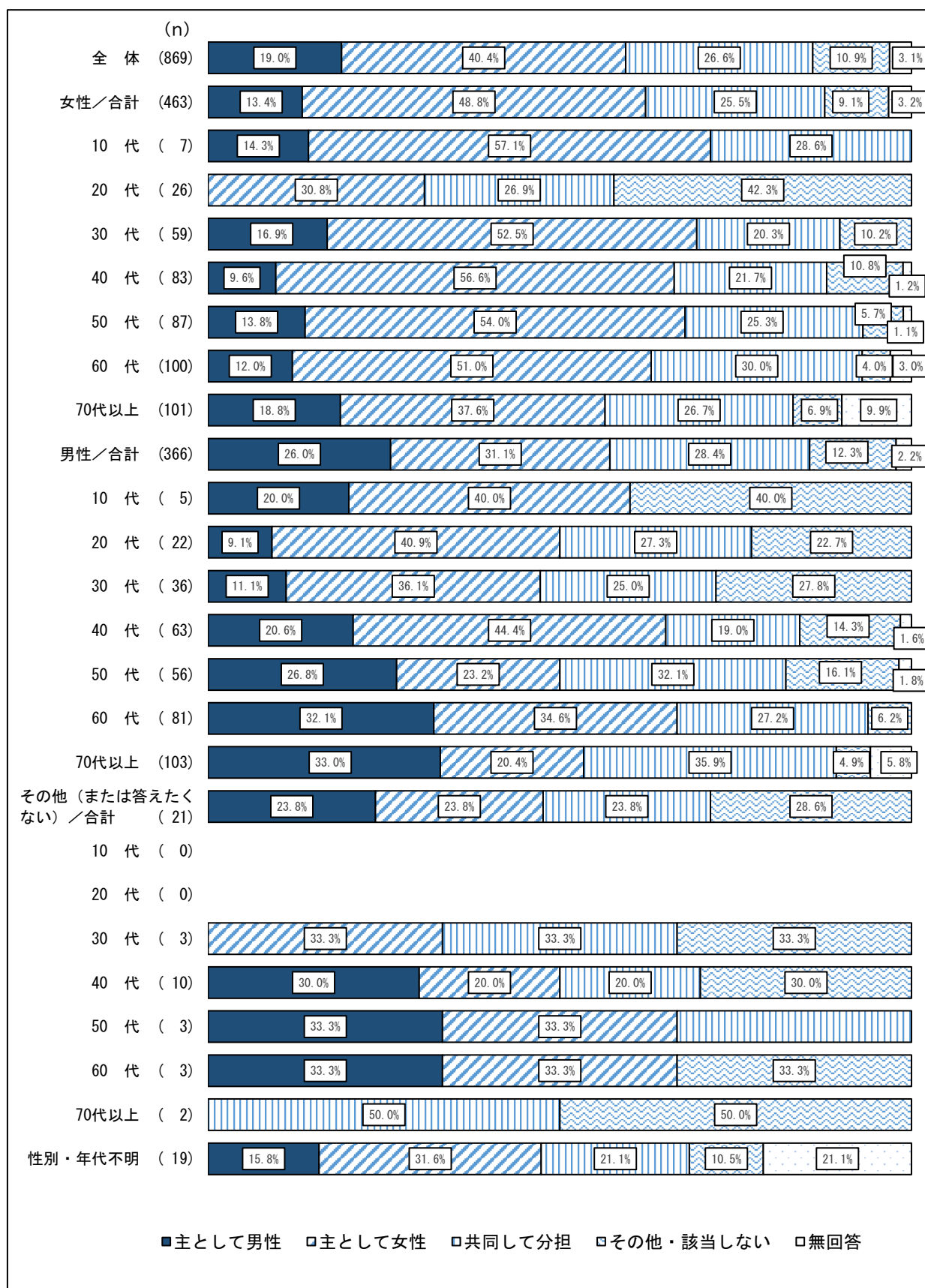
【性・年代別】③親や家族の介護



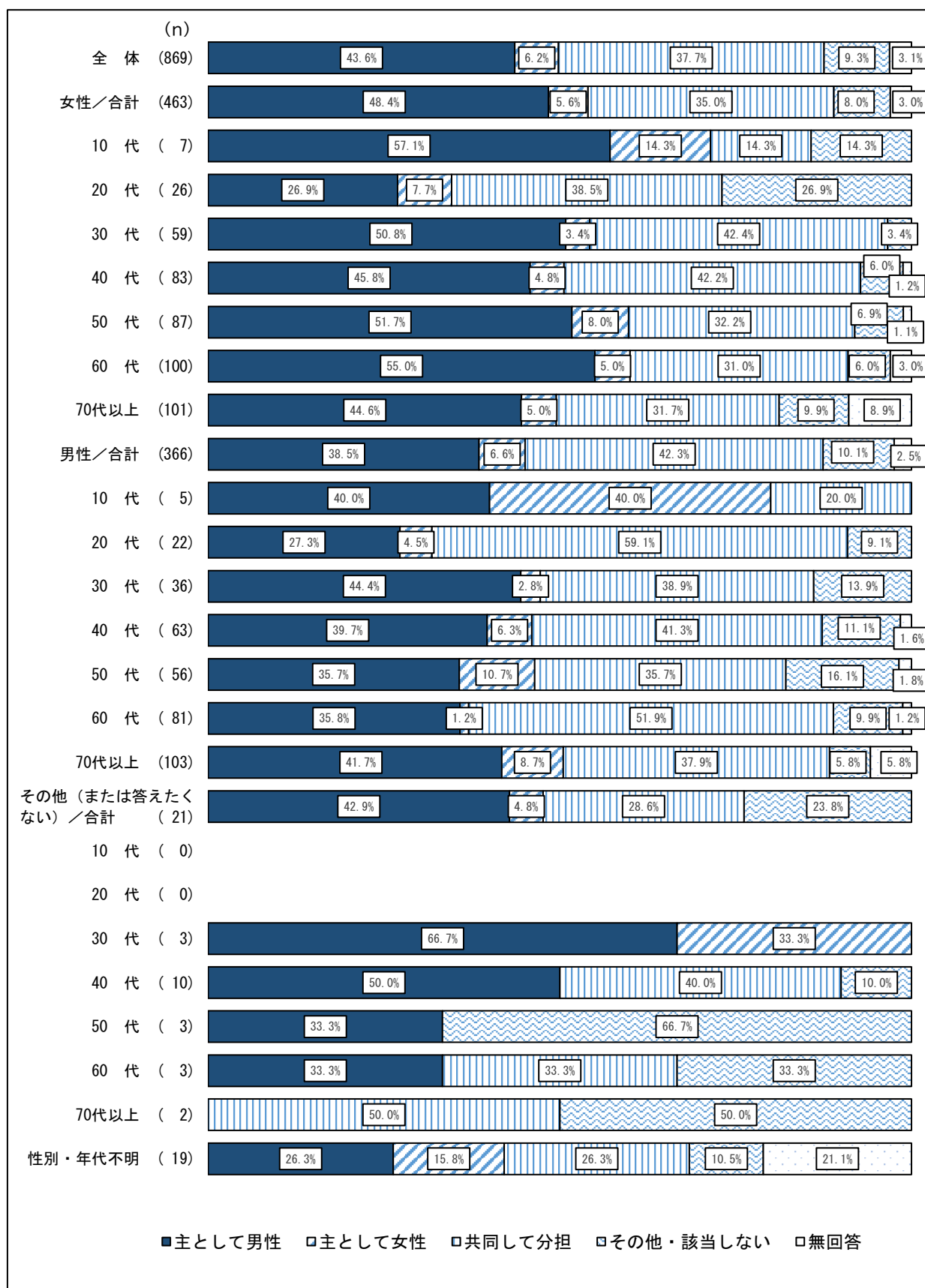
【性・年代別】④家計の管理



【性・年代別】⑤自治会などの地域活動やPTA活動



【性・年代別】⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定



家庭生活や地域活動について

問5 あなたのご家庭では、次の①～⑥のことについて、主にどなたが行うことが望ましいと考えますか。（各項目1つだけ選択）

	主として 男性	主として 女性	共同して 分担	その他
①家事（炊事・洗濯・掃除など）	1	2	3	4
②子育て（子どもの世話・教育など）	1	2	3	4
③親や家族の介護	1	2	3	4
④家計の管理	1	2	3	4
⑤自治会などの地域活動やPTA活動	1	2	3	4
⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定	1	2	3	4

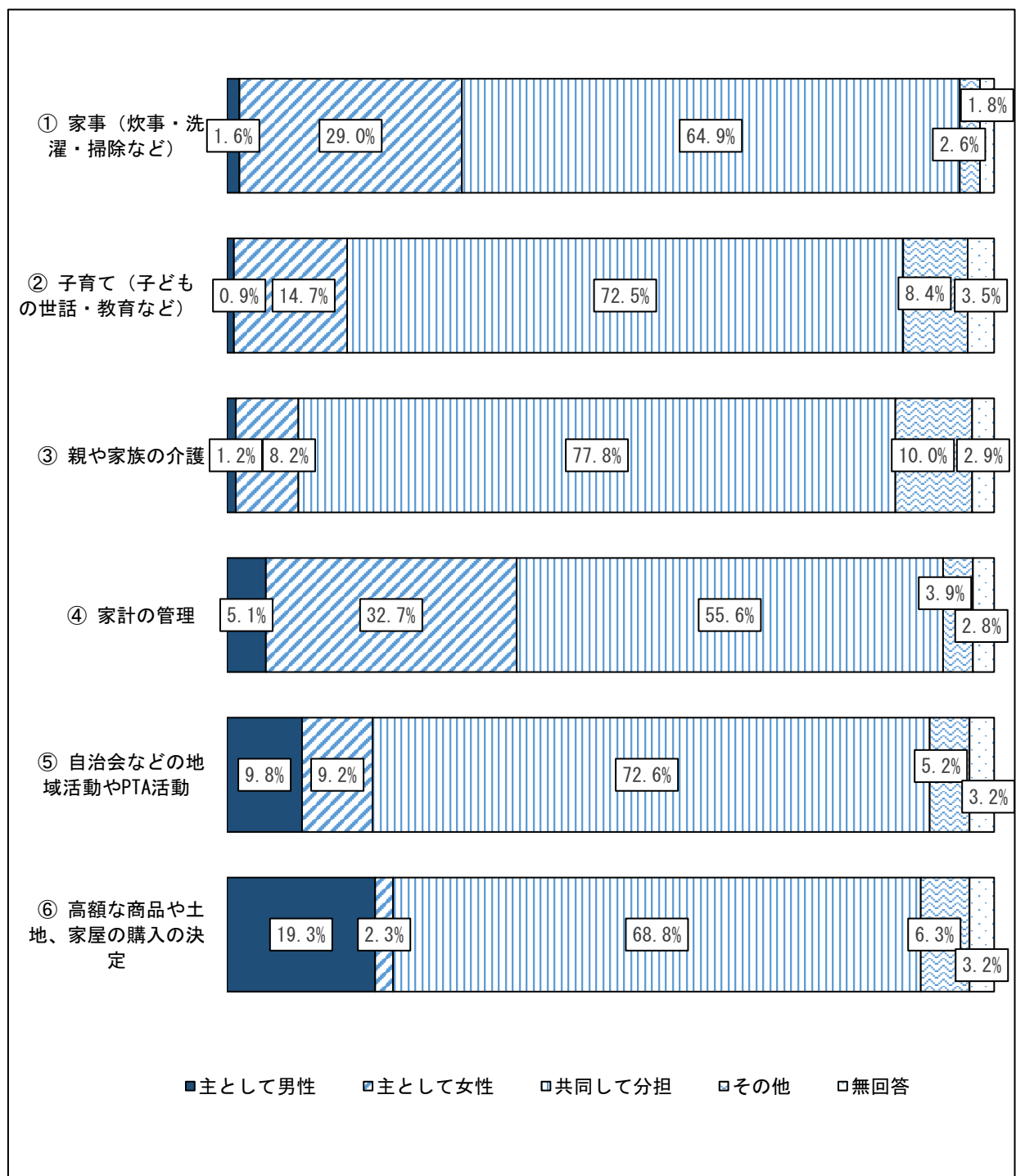
全ての項目で「共同して分担」の回答が、最も多い

全体として、全ての項目で「共同して分担」の回答が最も多くなっています。次いで、「①家事」、「②子育て」、「④家計の管理」は「主として女性」、「⑤自治会などの地域活動やPTA活動」、「⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定」は、「主として男性」の順となっています。

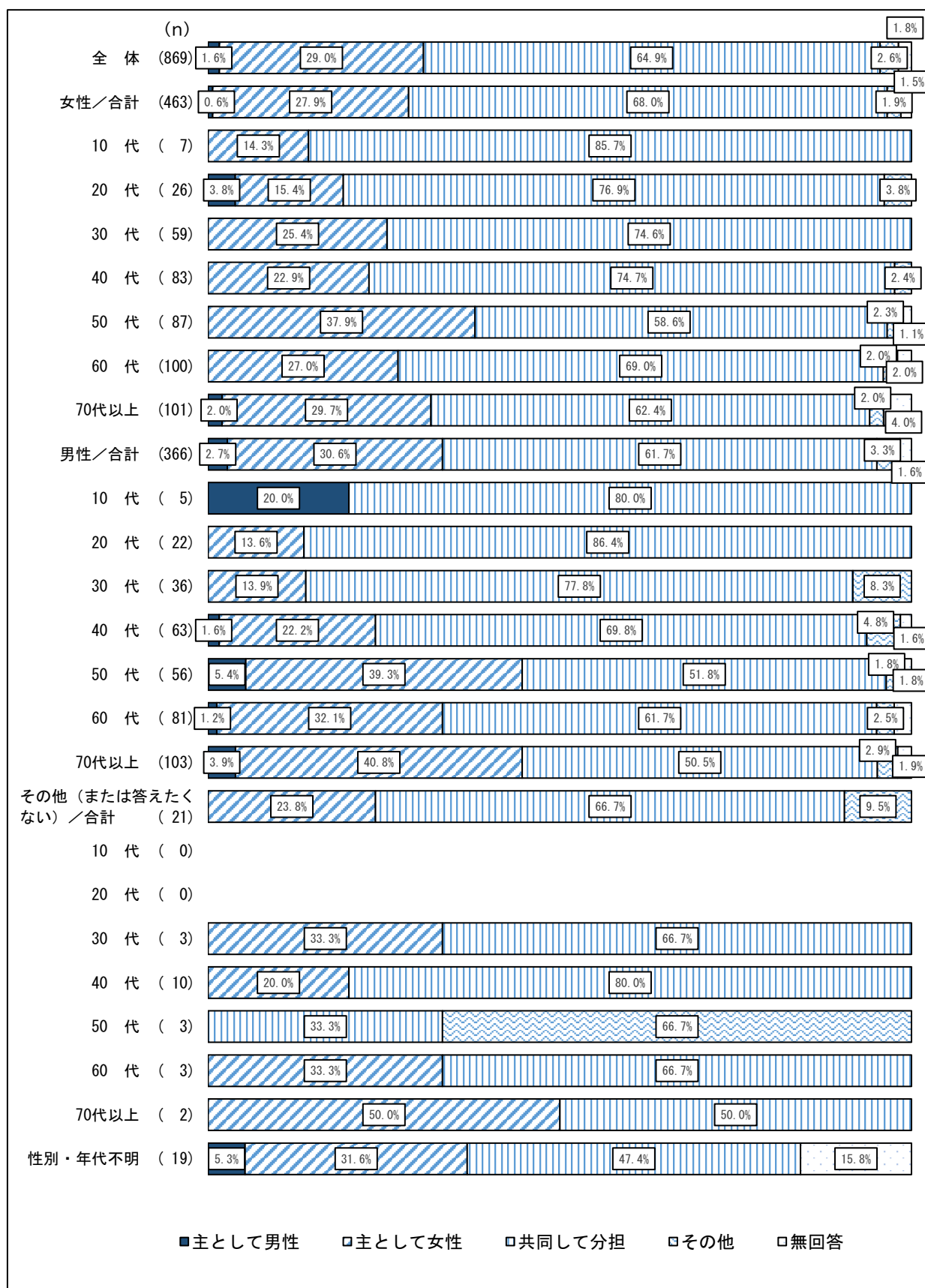
性・年代別で見ると、「⑤自治会などの地域活動やPTA活動」では、その他の50代を除く性・年代で「共同して分担」が最も多く、次いで女性の10代と50代、男性の20代から40代を除く性・年代で「主として男性」が多くなっています。

全体として、前出の問4では「共同して分担」が最も多い項目はなかったことから、家庭での役割分担の現状と理想に差があることが窺えます。

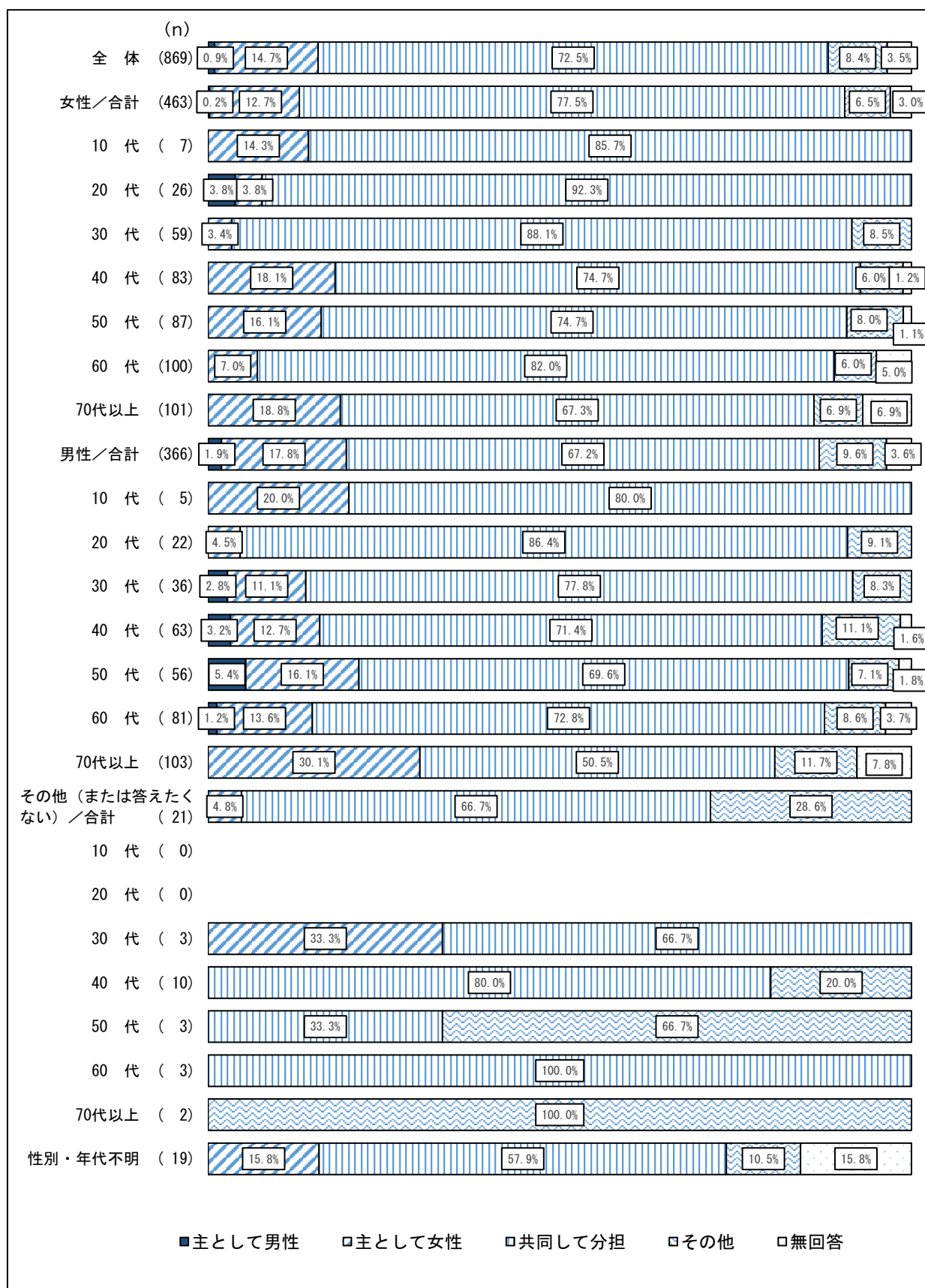
【全体】 n=869



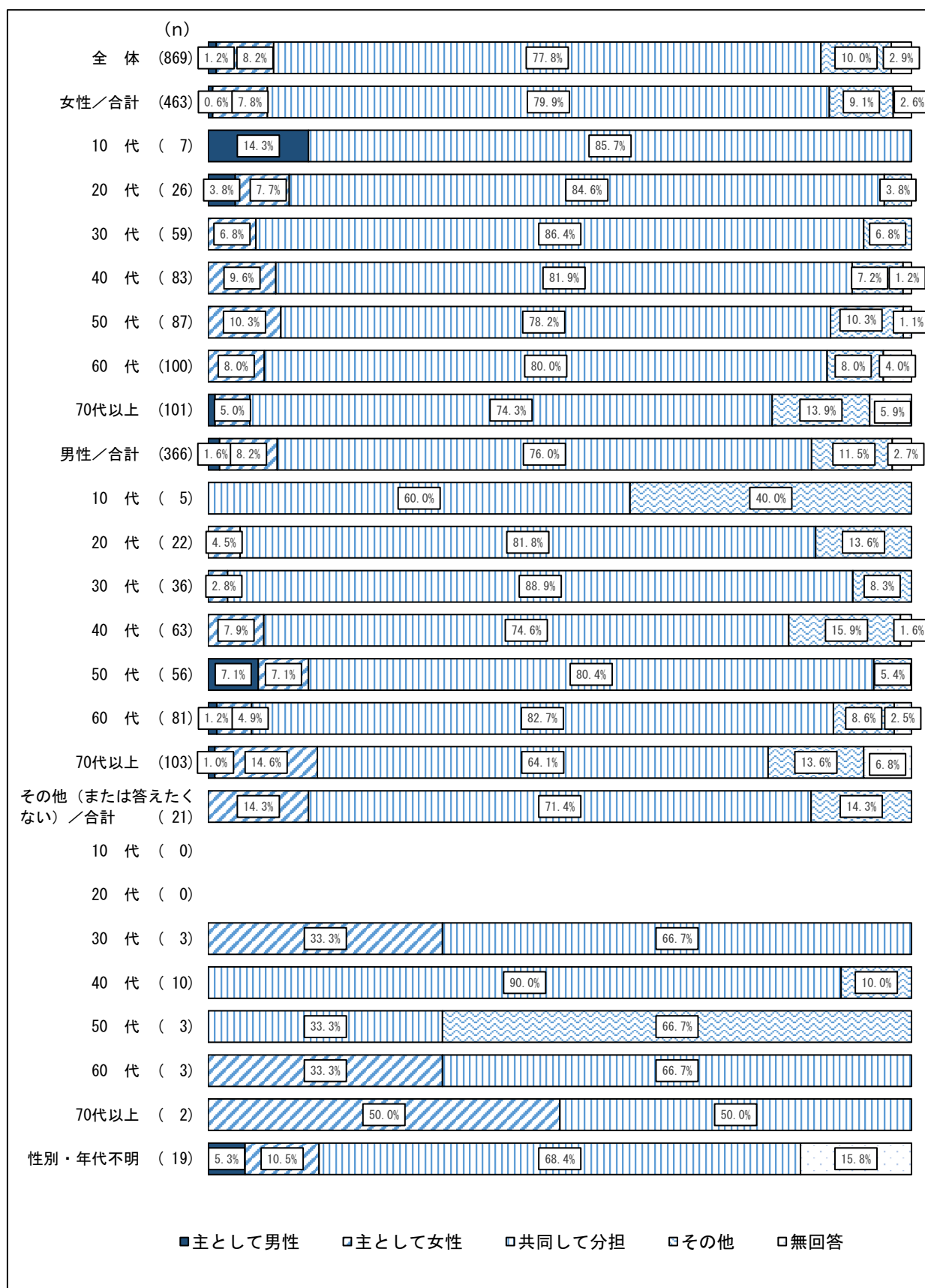
【性・年代別】①家事（炊事・洗濯・掃除など）



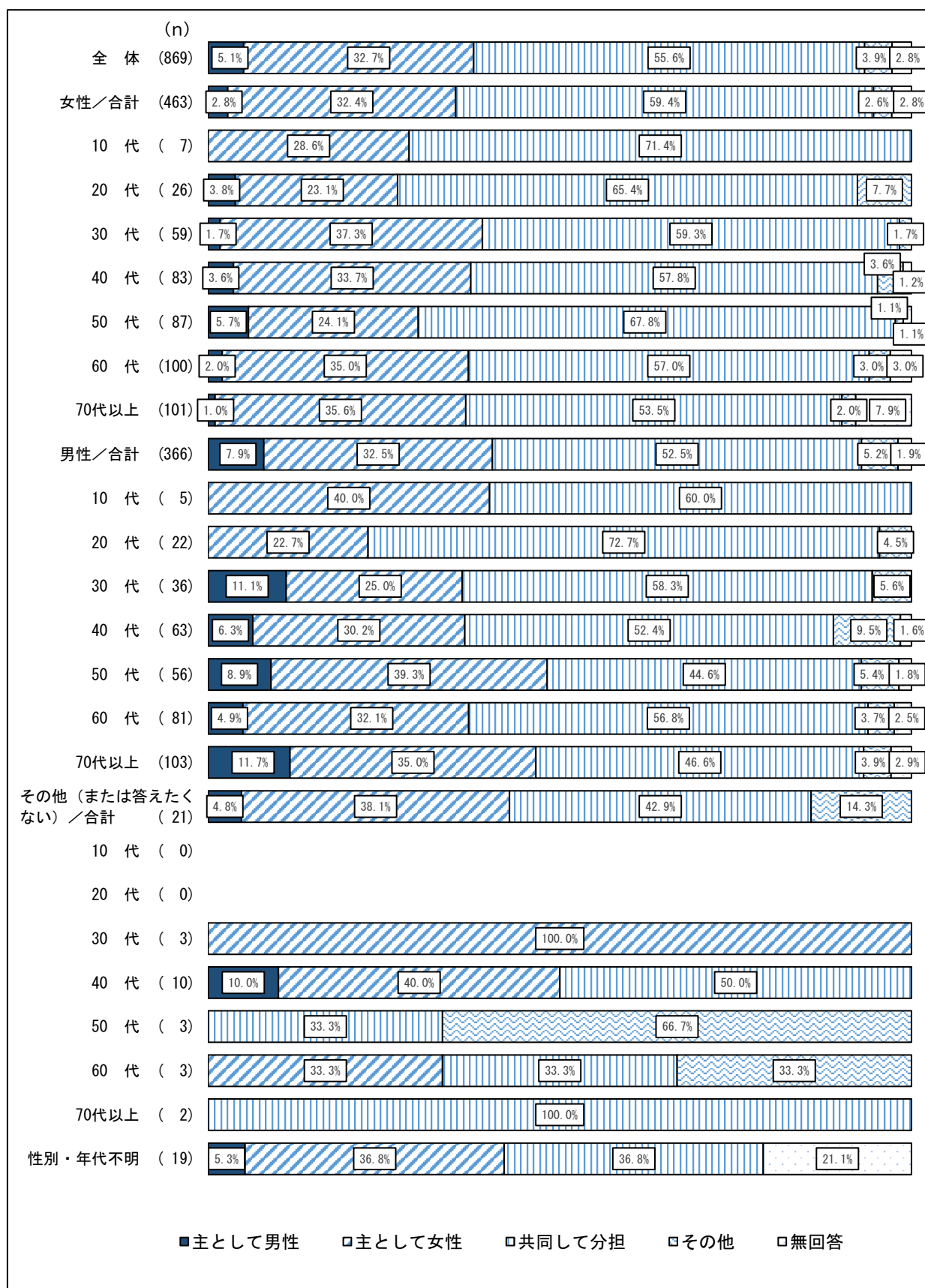
【性・年代別】②子育て（子どもの世話・教育など）



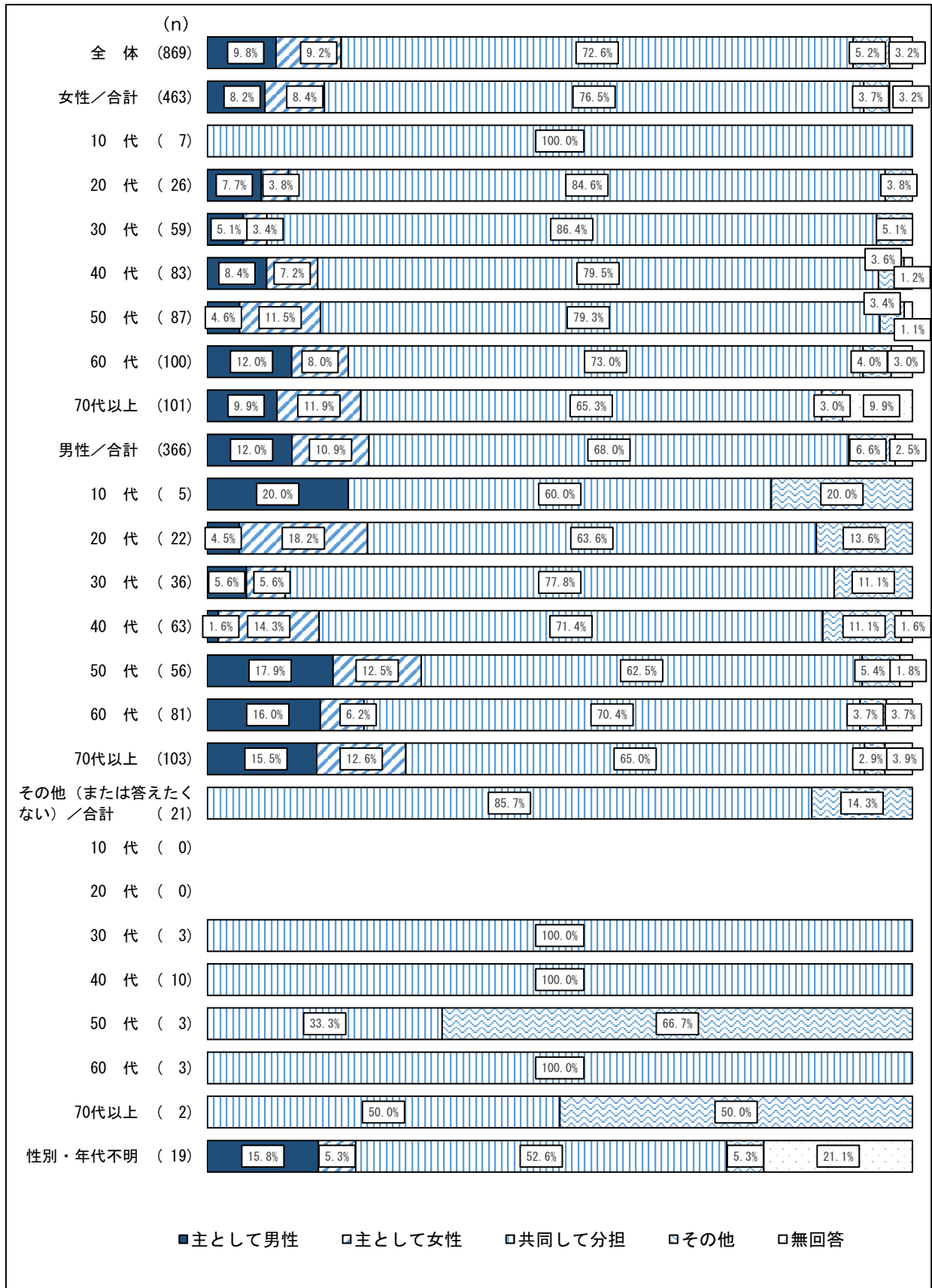
【性・年代別】③親や家族の介護



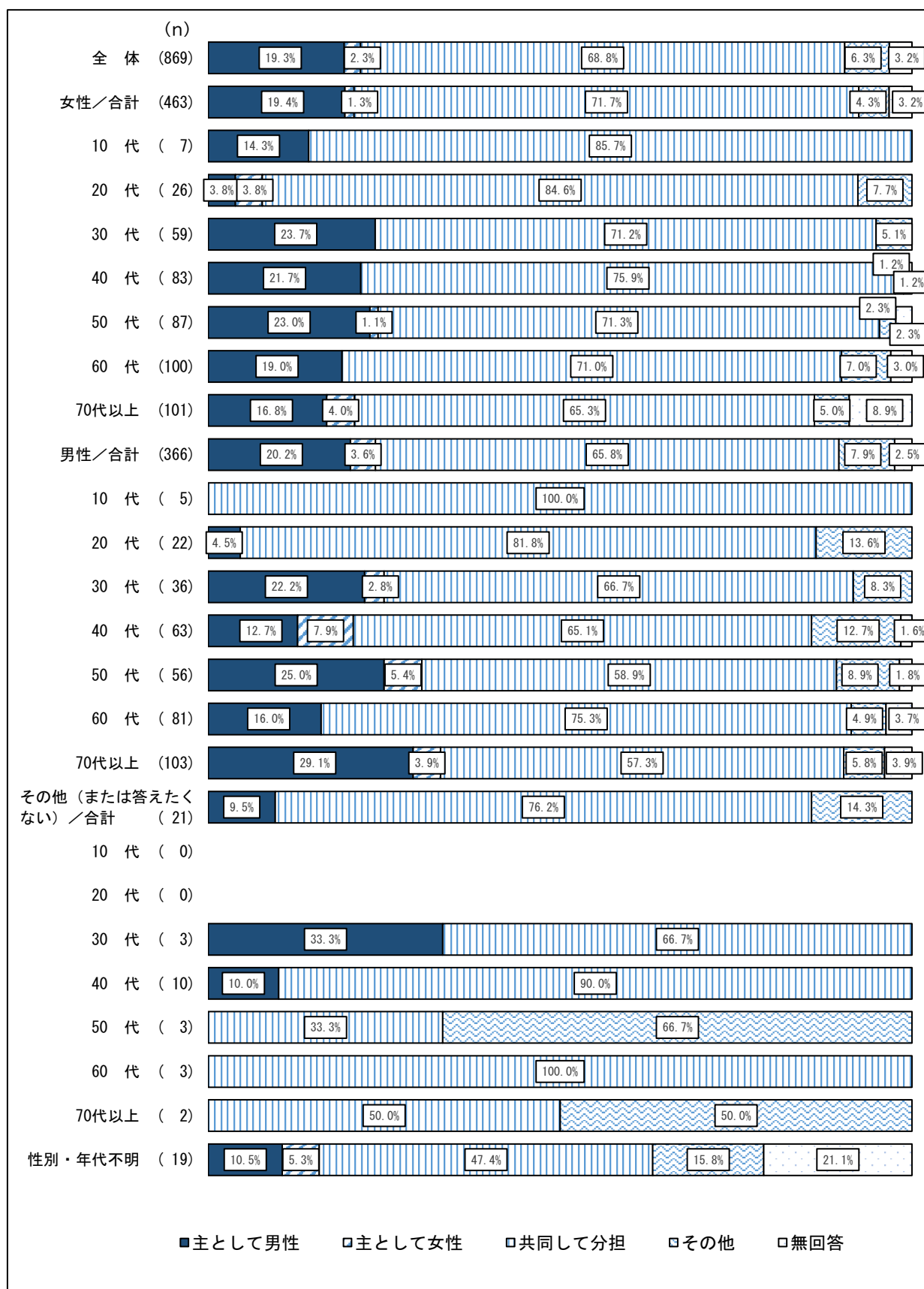
【性・年代別】④家計の管理



【性・年代別】⑤自治会などの地域活動やPTA活動



【性・年代別】⑥高額な商品や土地、家屋の購入の決定



家庭生活や地域活動について

問6 仕事と生活のバランスについて、あなたの現状で優先しているものを「ア 現在の状況」から、優先したいと思うものを「イ 理想」から、それぞれ2つお答えください。（各項目2つまで選択）

ア 現在の状況

1. 仕事を優先した生活
2. 家庭生活を優先した生活
3. 地域活動・趣味・娯楽を優先した生活
4. その他()
5. わからない

イ 理想

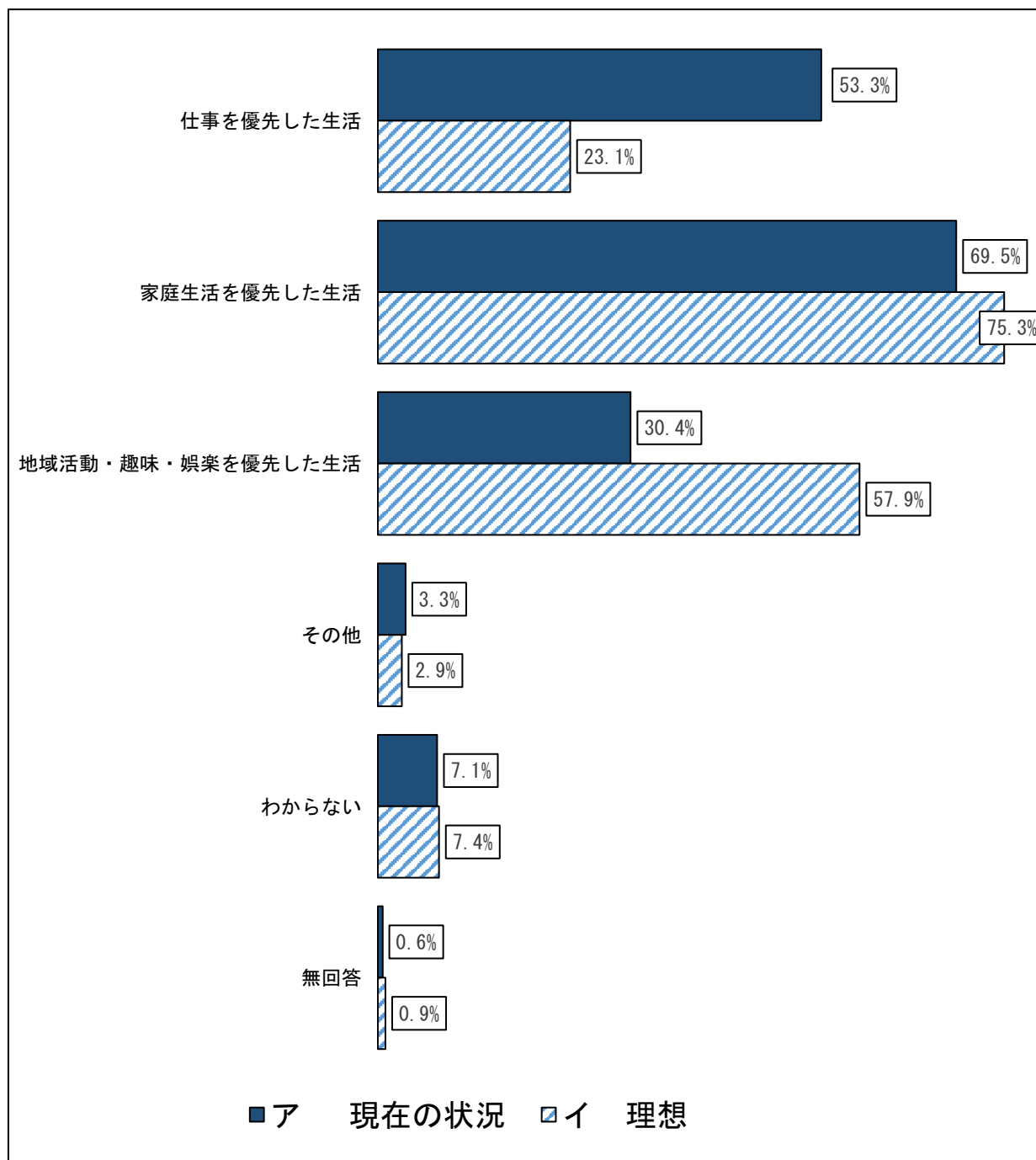
1. 仕事を優先した生活
2. 家庭生活を優先した生活
3. 地域活動・趣味・娯楽を優先した生活
4. その他()
5. わからない

現状、理想ともに「家庭生活を優先した生活」が最も多い

現状は、「家庭生活を優先した生活」が69.5%、次いで「仕事を優先した生活」が53.3%となっています。性別で見ると、「仕事を優先した生活」は男性61.2%に対し女性は46.0%、「家庭生活を優先した生活」は女性76.7%に対し男性は61.2%となっています。

理想では、現状と比較すると「仕事を優先した生活」と回答した割合が少なく、「地域活動・趣味・娯楽を優先した生活」と回答した割合が多くなっており、現状と理想の乖離が大きくなっています。

【全体】 n=869



その他の回答（記述分）

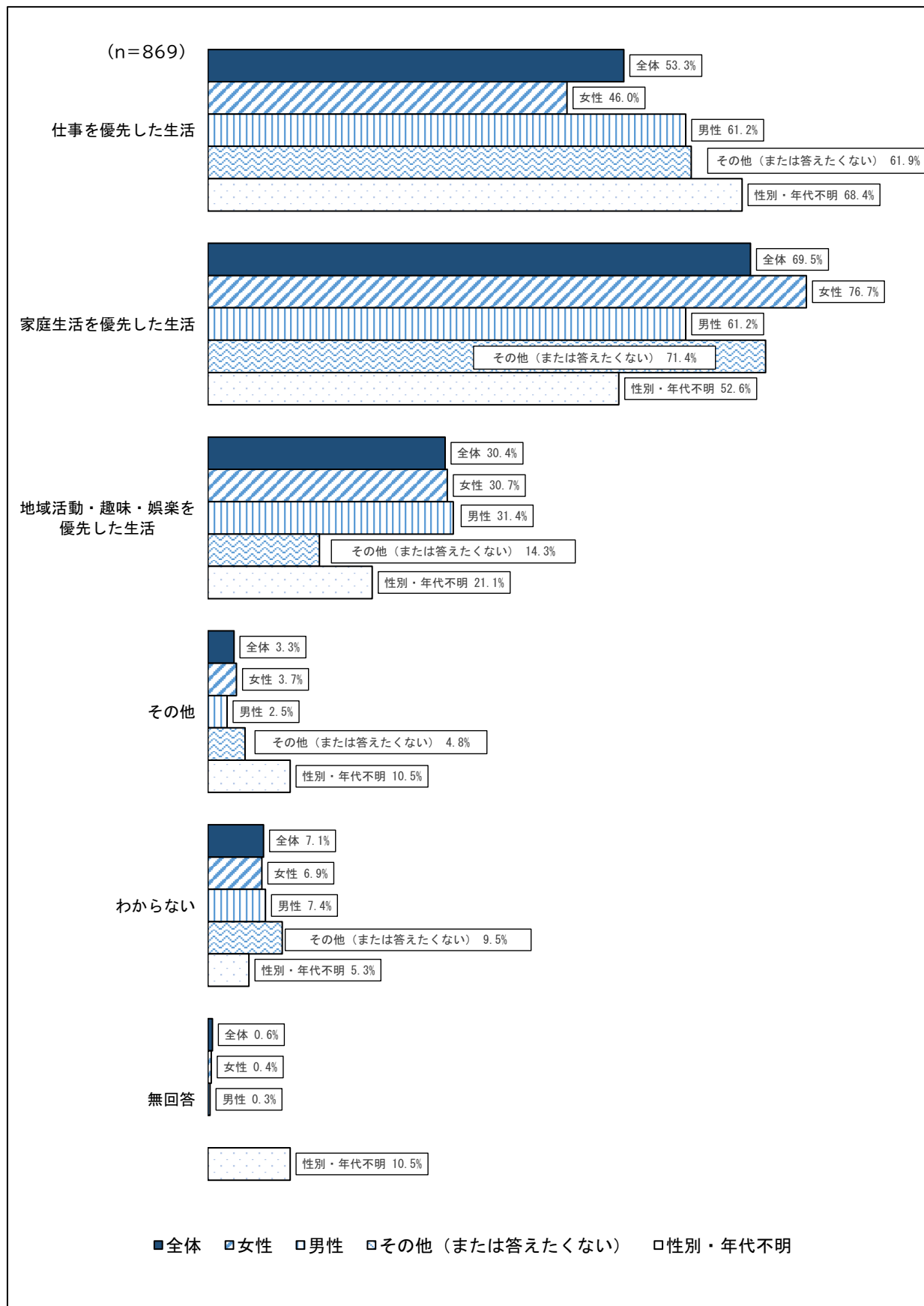
【A現在の状況】

健康・病気療養を優先した生活（6）、学業を優先した生活（3）、育児を優先した生活（3）

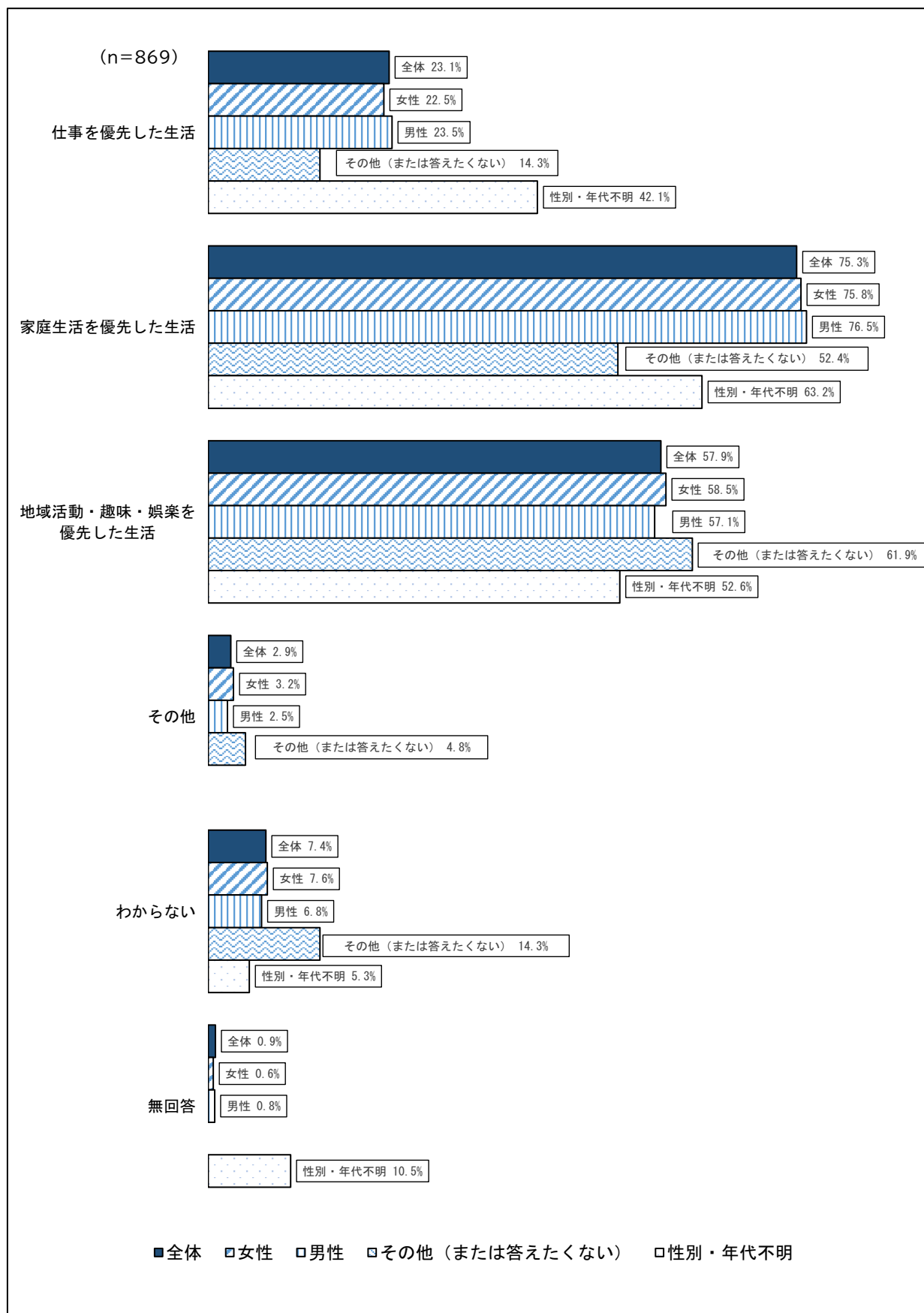
【I理想】

学業を優先した生活（3）、仕事と家庭生活のバランスがとれた生活（3）、すべてのバランスがとれた生活（2）

【性別】 ア 現在の状況



【性別】 イ 理想



家庭生活や地域活動について

問7 あなたは、次のような地域で行う活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。（各項目どちらか1つを選択）

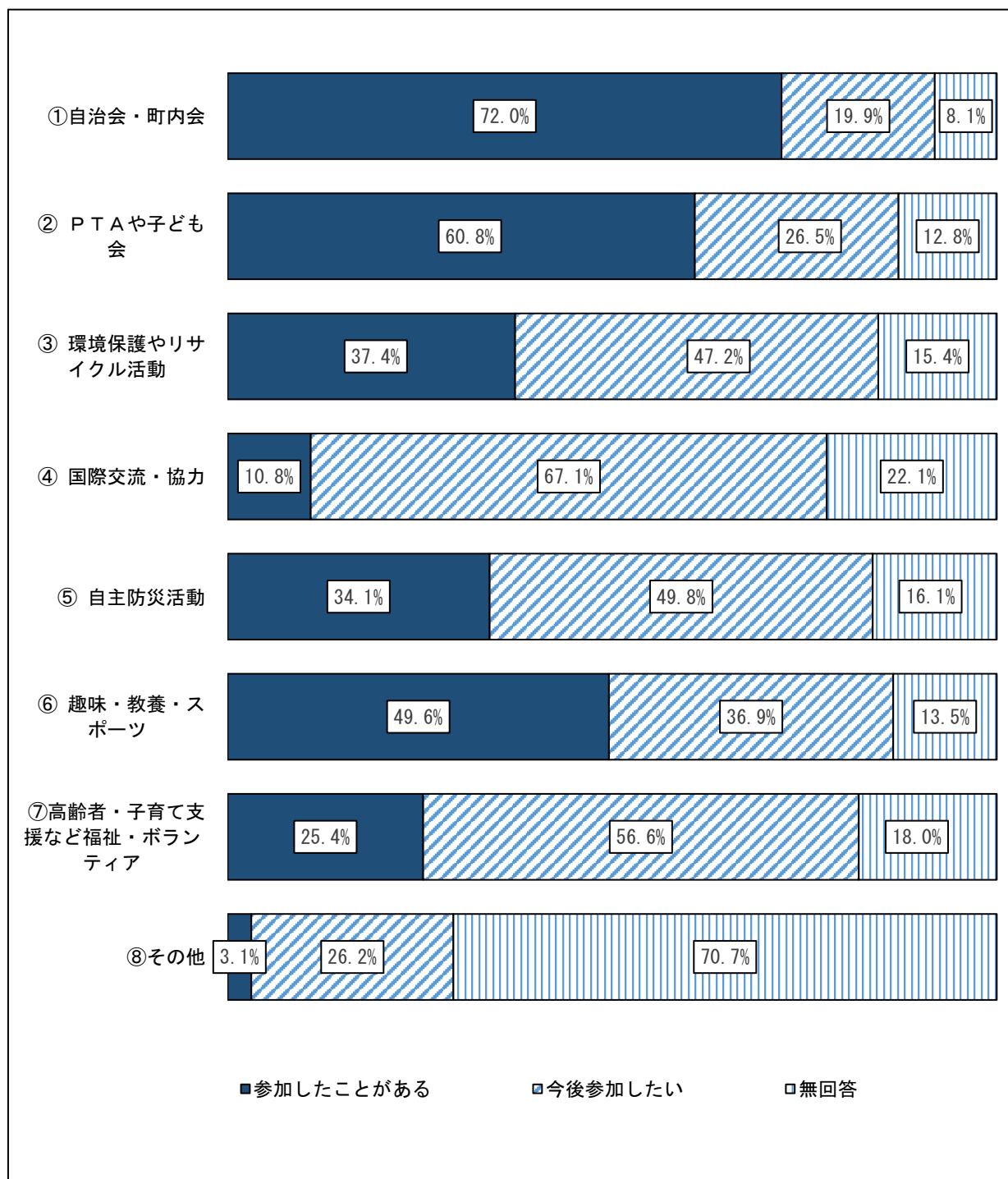
	参加したことがある	今後参加したい
①自治会・町内会	1	2
②PTAや子ども会	1	2
③環境保護やリサイクル活動	1	2
④国際交流・協力	1	2
⑤自主防災活動	1	2
⑥趣味・教養・スポーツ	1	2
⑦高齢者・子育て支援など福祉・ボランティア	1	2
⑧その他（ ）	1	2

「①自治会・町内会」への参加が72.0%で最も多い

全体で、「参加したことがある」と回答した割合が最も多かったのは、「①自治会・町内会」で72.0%、次いで「②PTAや子ども会」の60.8%となっています。

性・年代別に見ていくと、「⑤自主防災活動」では男性・女性とも50代以上で「参加したことがある」と回答した割合が多くなっています。「①自治会・町内会」の「参加したことがある」との回答のうち、30代では女性52.5%に対し男性は33.3%と19.2ポイントの差があります。また、「②PTAや子ども会」の「参加したことがある」との回答は、女性が73.0%であるのに対し、男性は44.8%で、28.2ポイント差となっています。

【全体】 n=869



⑧その他回答（記述分）

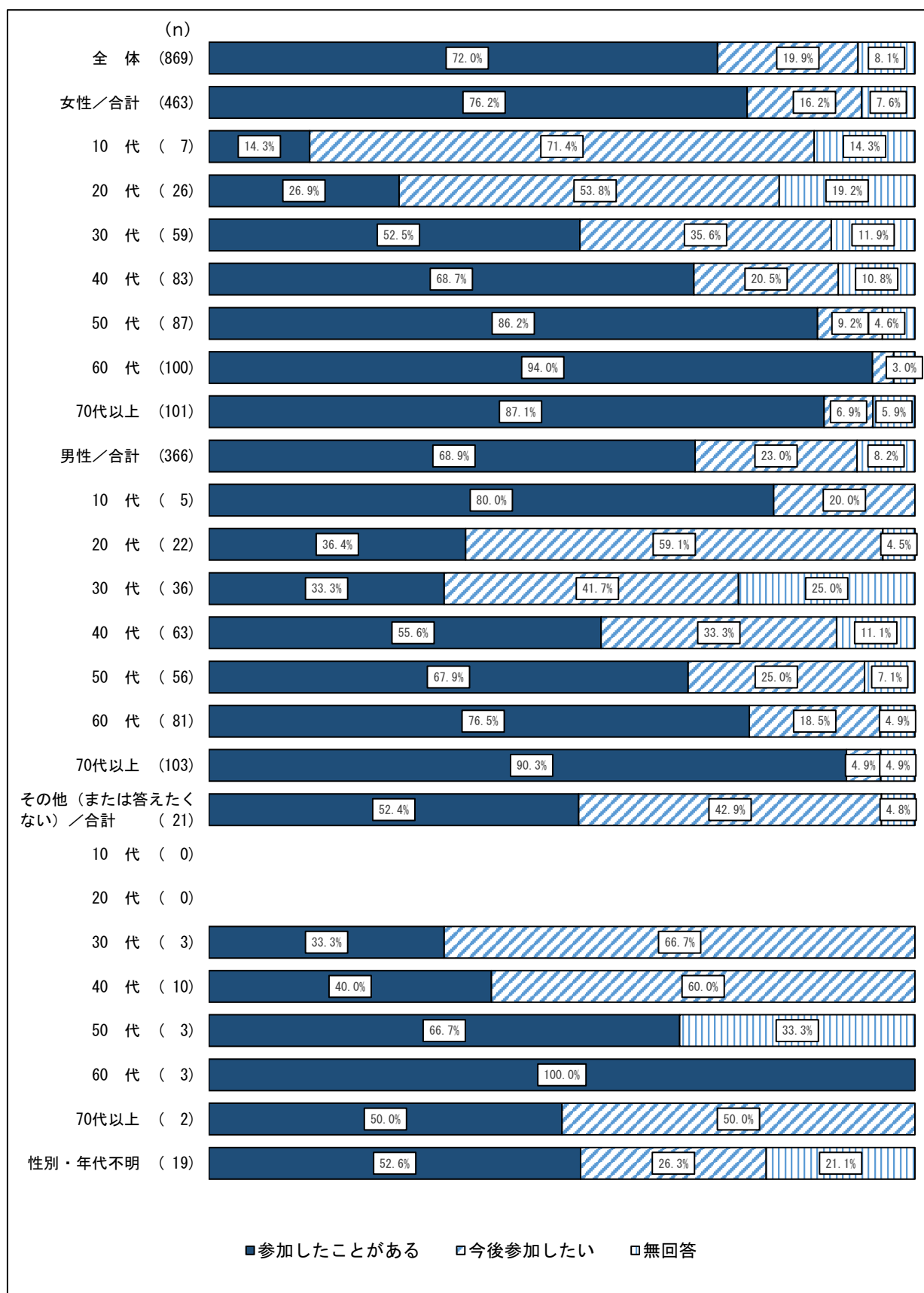
【参加したことがある】

震災・災害ボランティア（2）、環境美化（2）、祭り（2）

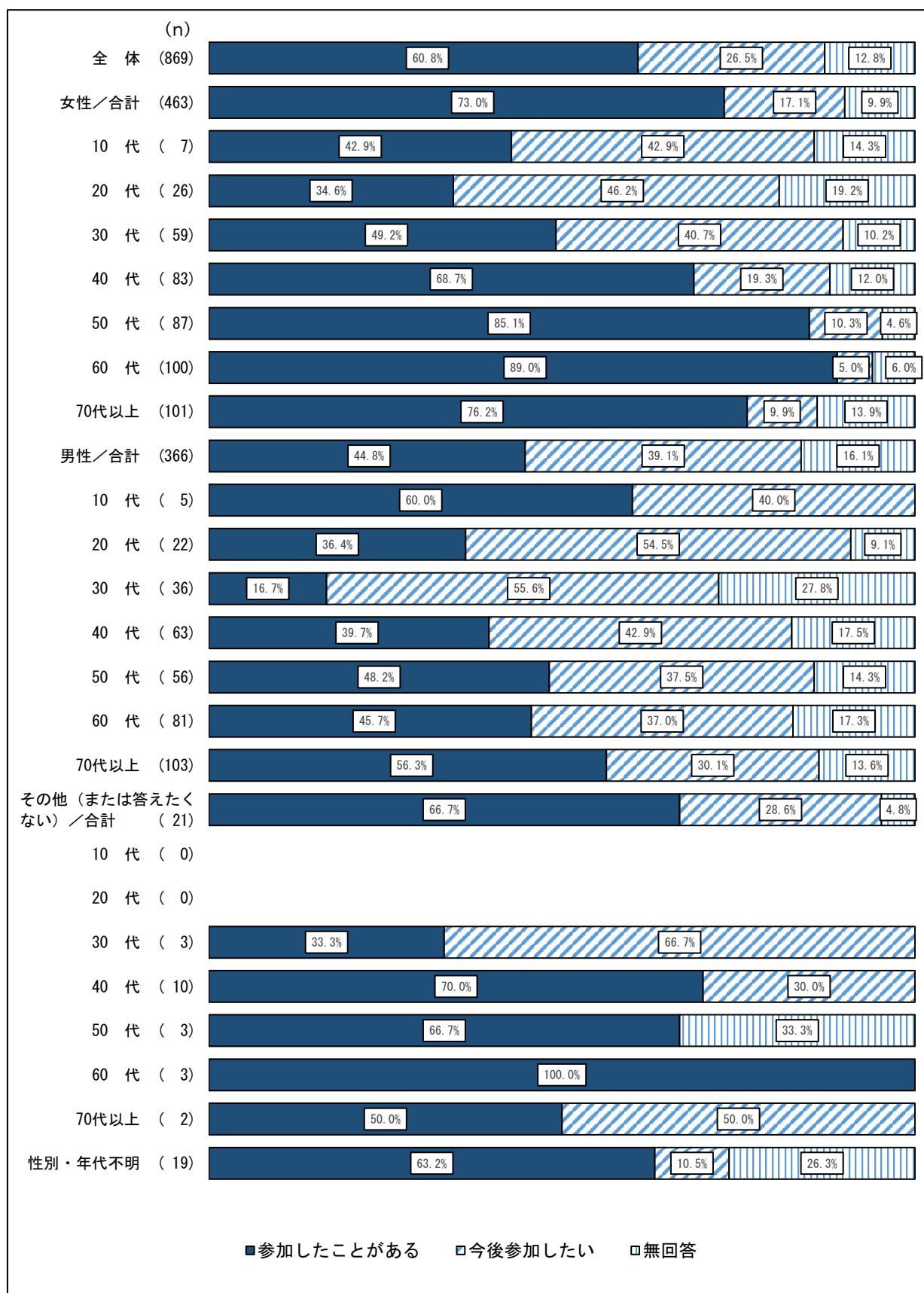
【今後参加したい】

動物愛護（4）、子育て支援（3）、スポーツ関係（3）、環境美化（2）、自主防災活動（2）

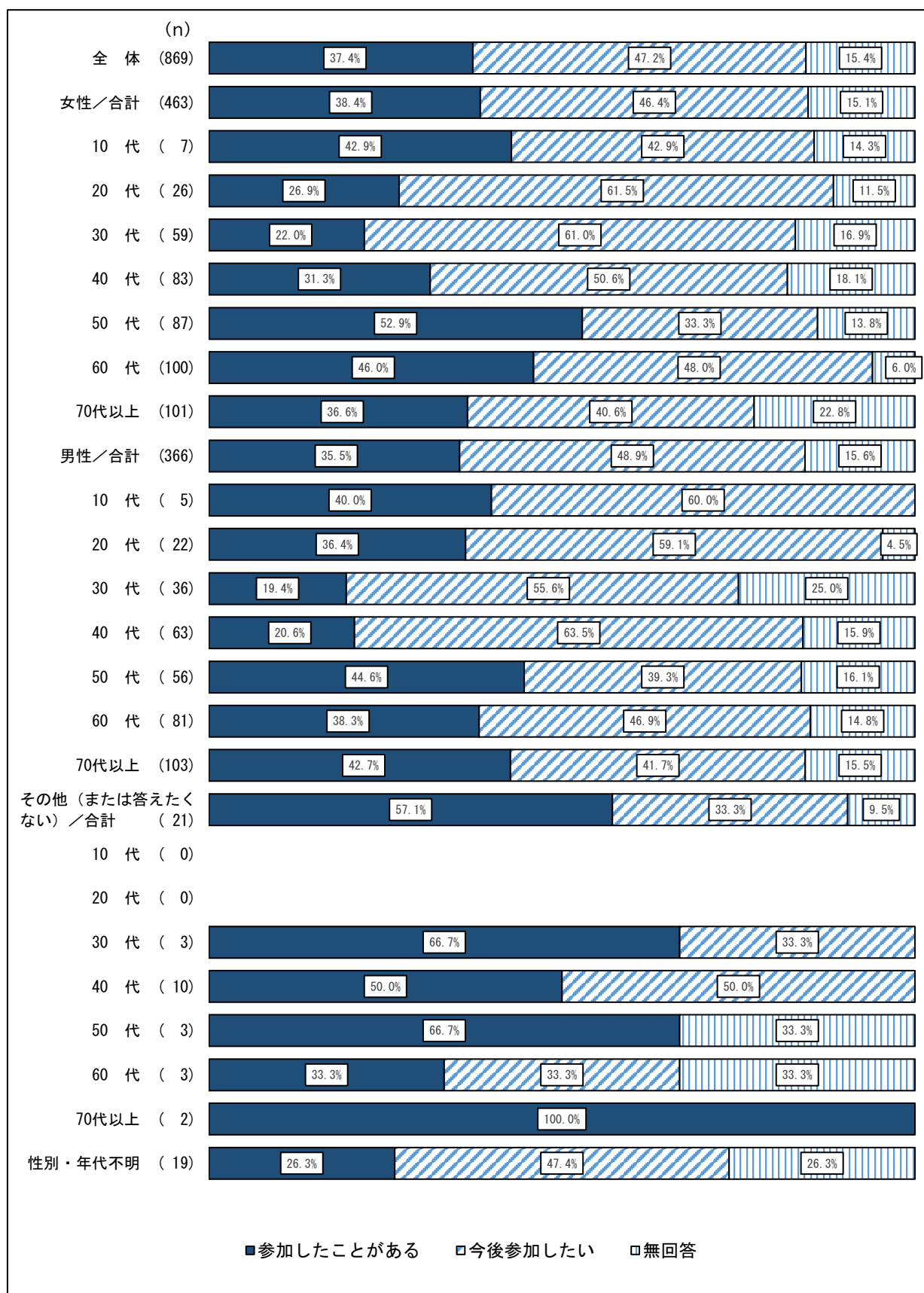
【性・年代別】①自治会・町内会



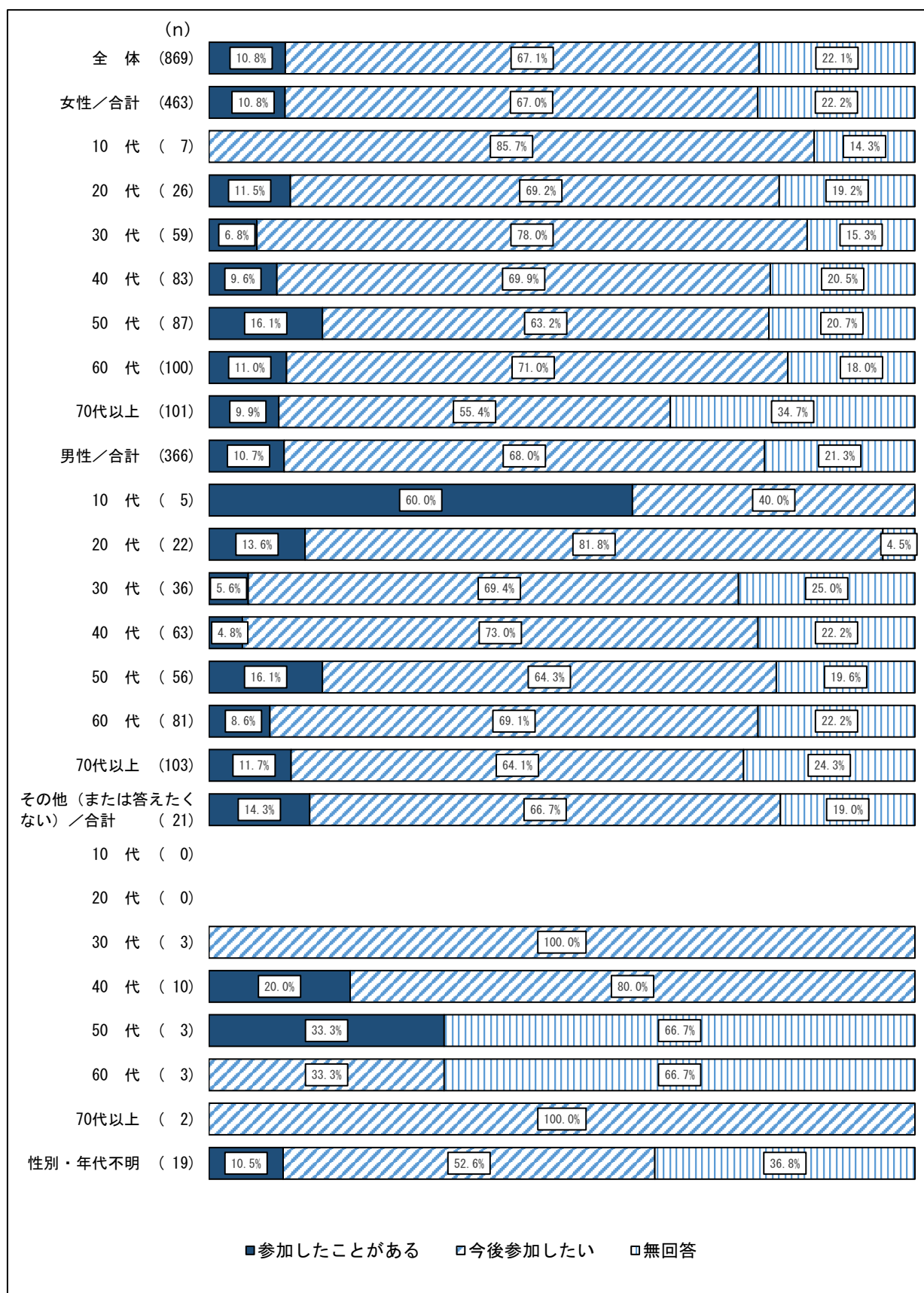
【性・年代別】②PTAや子ども会



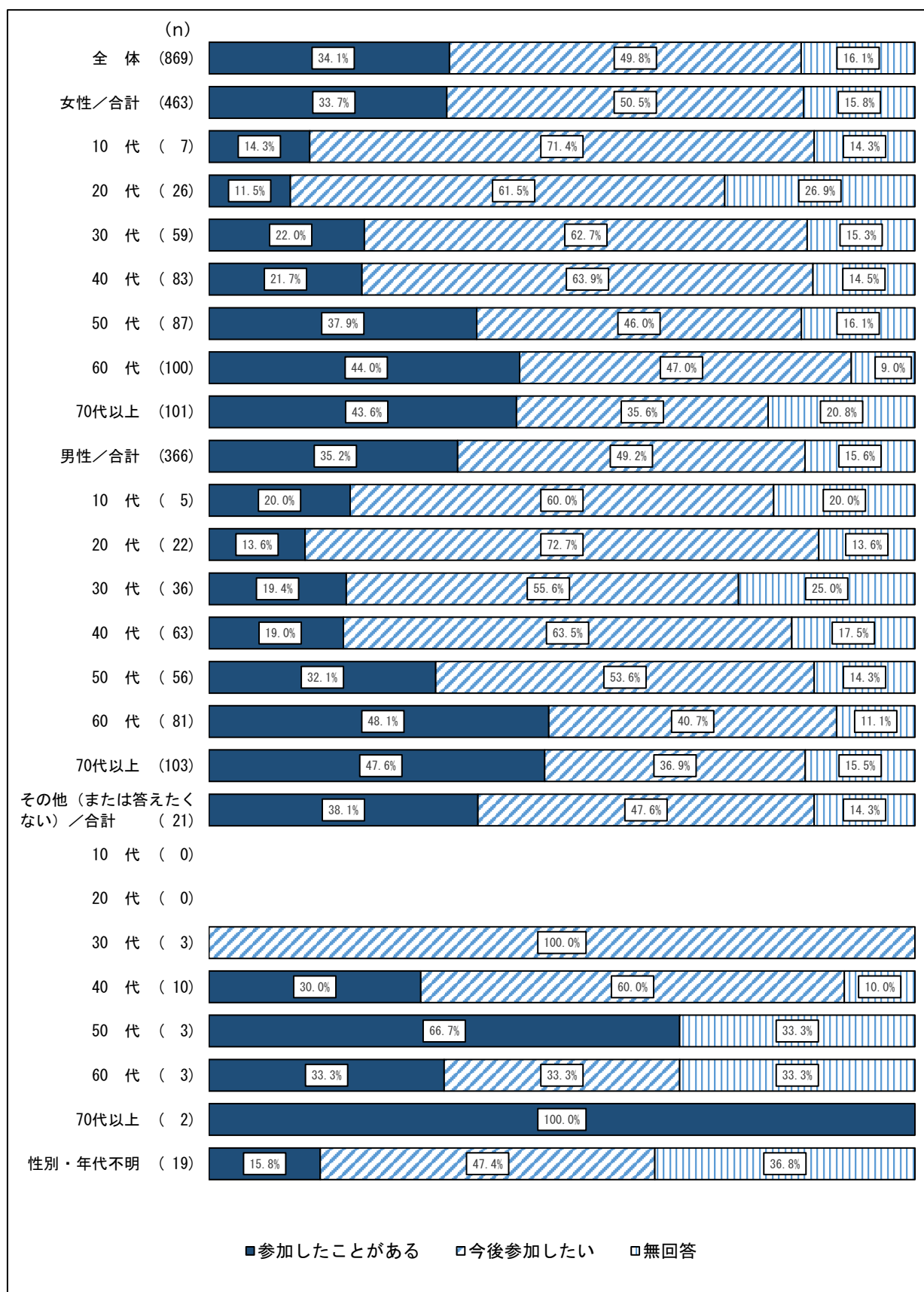
【性・年代別】③環境保護やリサイクル活動



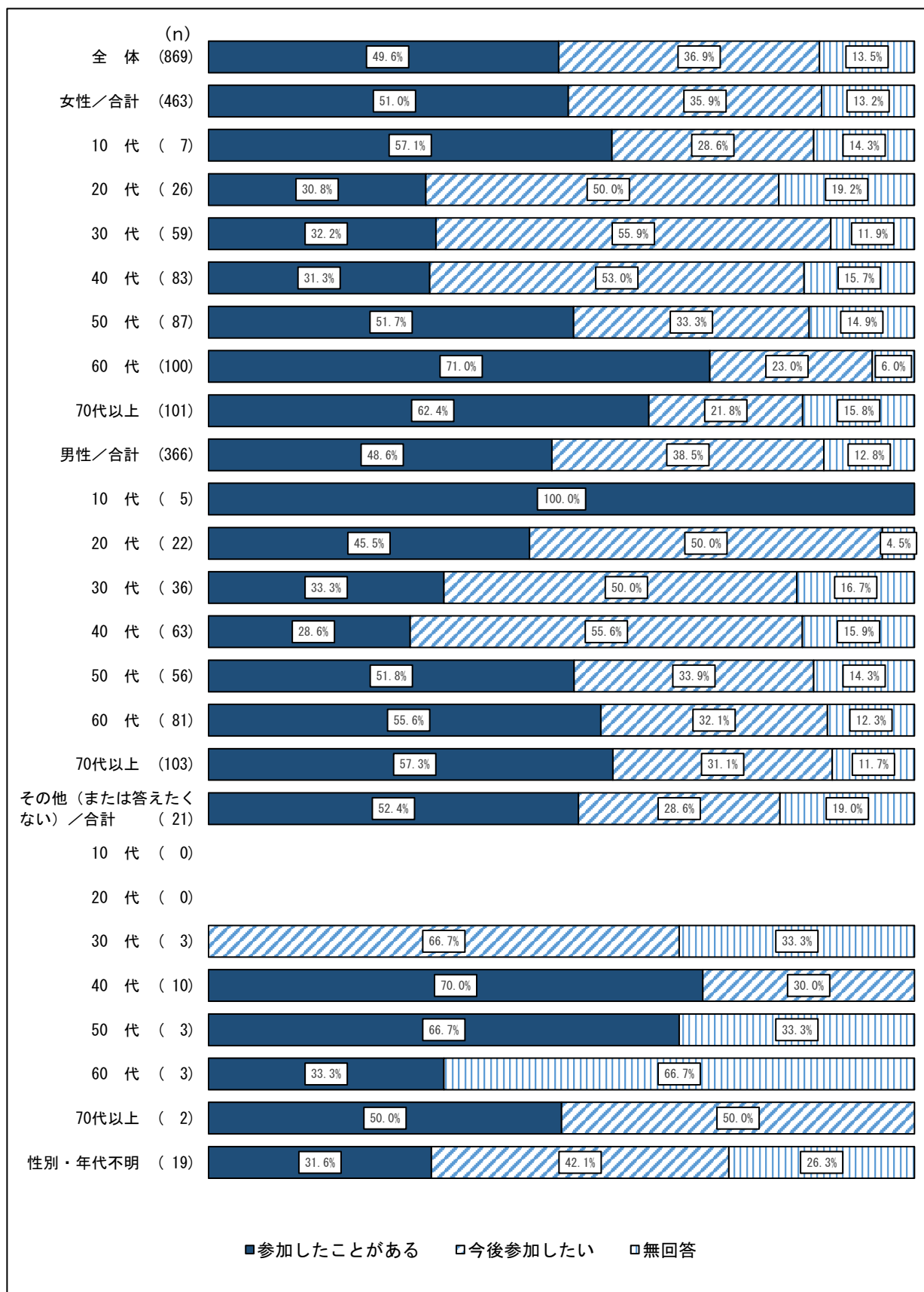
【性・年代別】④国際交流・協力



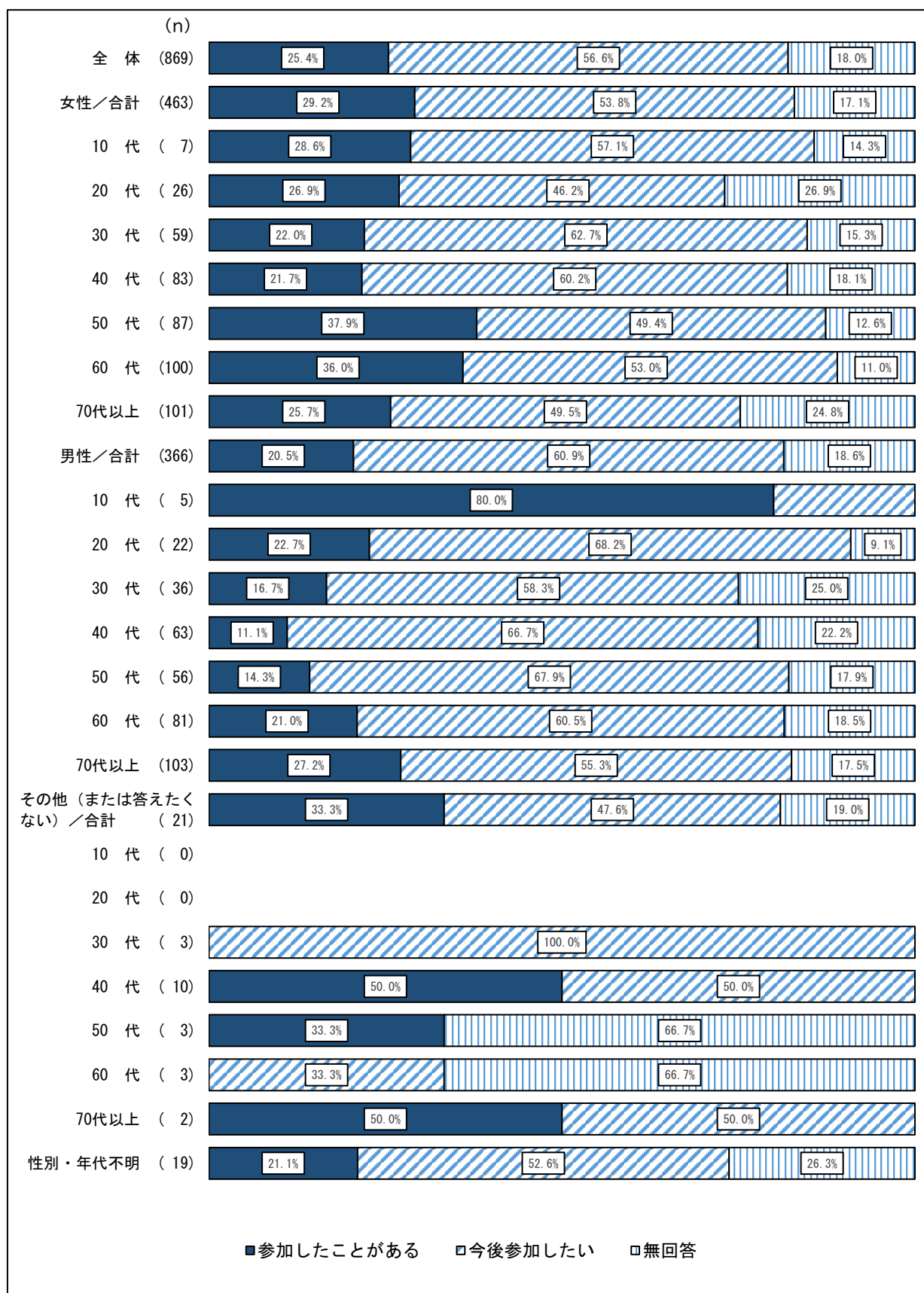
【性・年代別】⑤自主防災活動



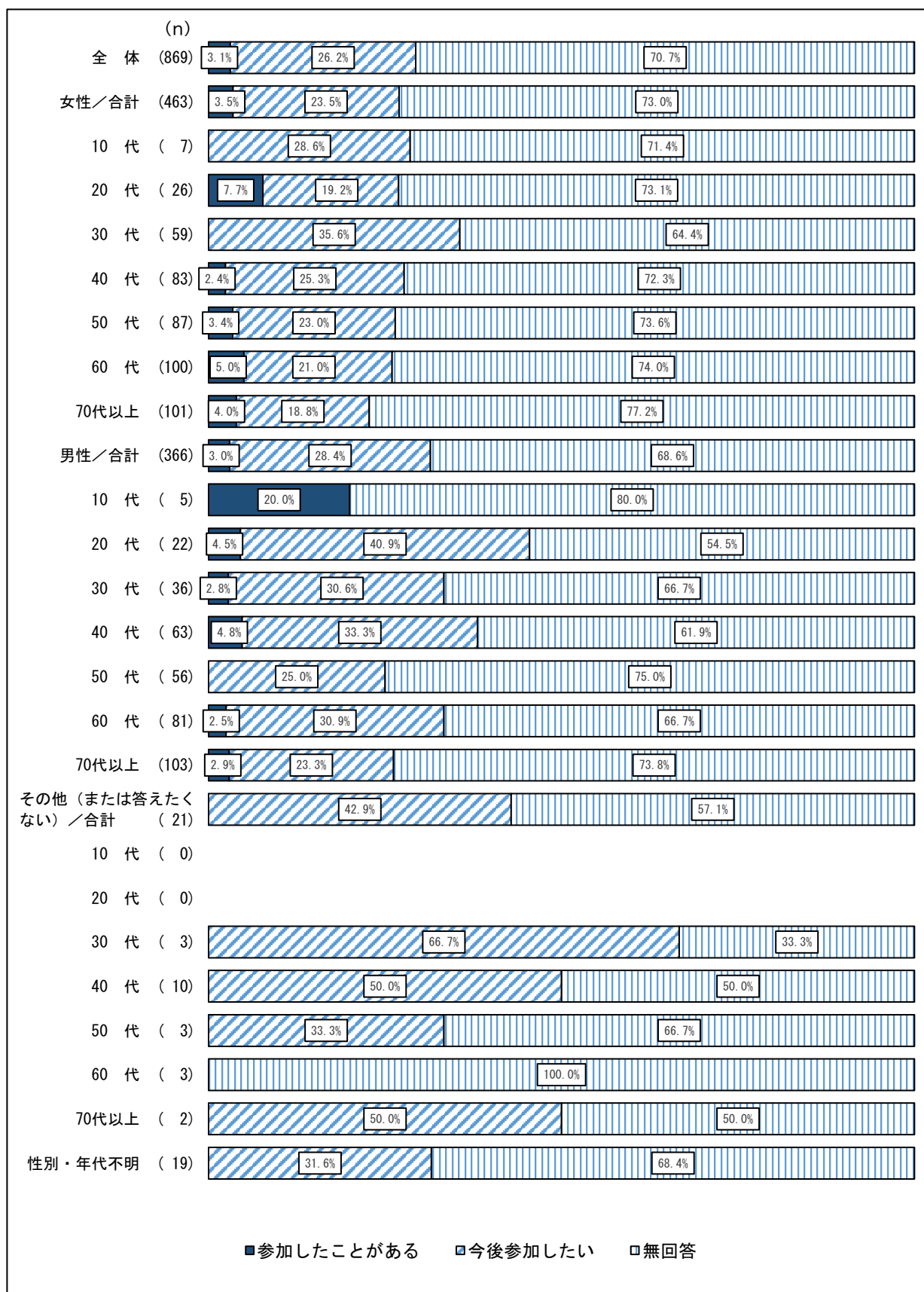
【性・年代別】⑥趣味・教養・スポーツ



【性・年代別】⑦高齢者・子育て支援など福祉・ボランティア



【性・年代別】⑧その他



家庭生活や地域活動について

問8 あなたが、防災・災害復興対策で配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。（あてはまる番号すべて選択）

1. 避難所に男女別のトイレや更衣室、授乳室等を設置すること
2. 被災者に対する相談窓口を設置すること
3. 避難所等における暴力を予防するため、巡回警備等を実施すること
4. 乳幼児、高齢者、障がい者、病人、妊産婦、授乳中の方などのニーズを的確に把握し、適切に物資を支給するよう配慮すること
5. 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、被災者対応に多様な視点が入ること
6. 防災計画・復興計画などを策定するにあたり、防災会議に男女がともに参画すること
7. 救援医療体制（診察、治療体制、妊産婦等をサポートする保健師・助産師の配置）を構築すること
8. 特にない
9. その他（具体的に： _____）
10. わからない

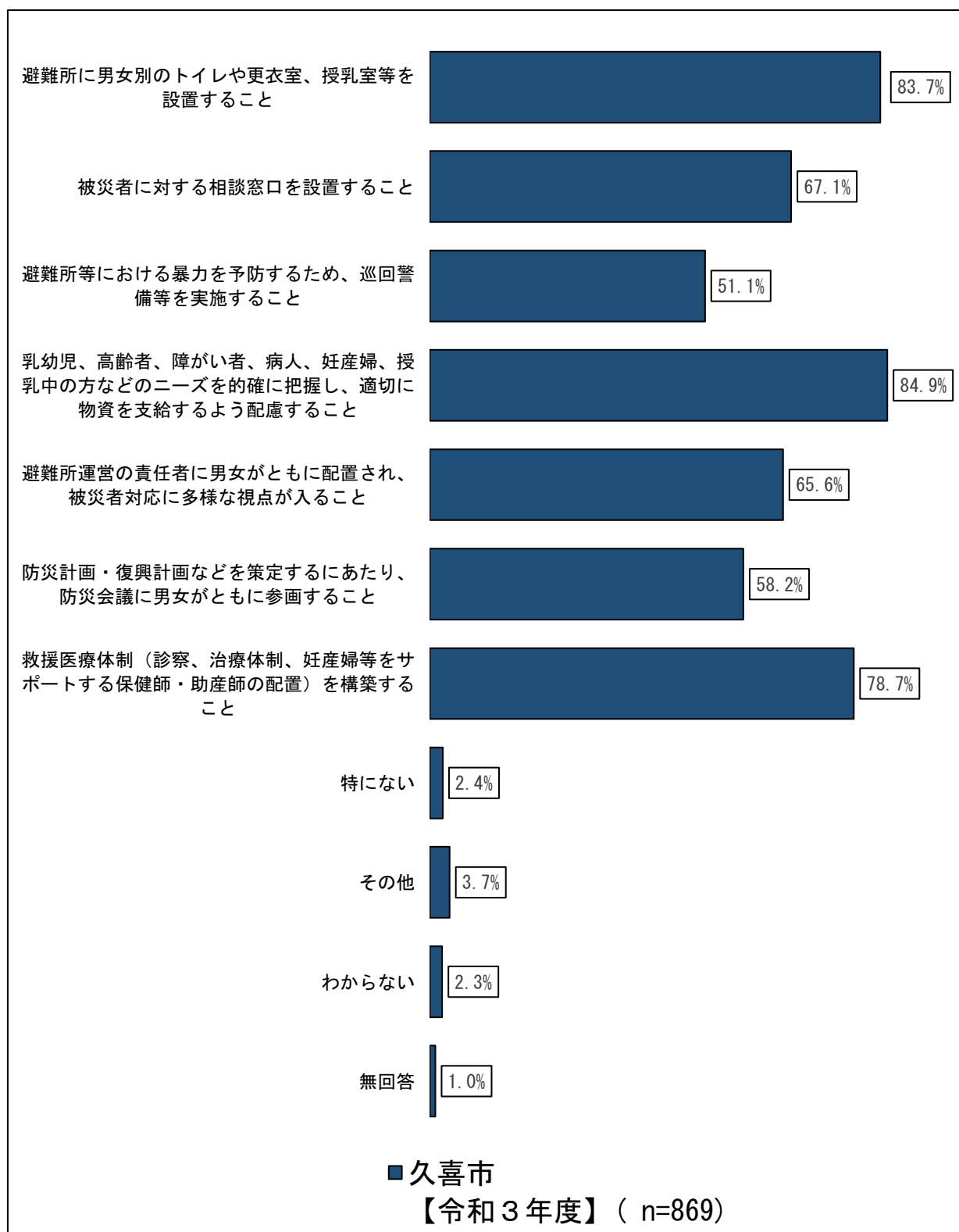
「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、妊産婦、授乳中の方などのニーズを的確に把握し、適切に物資を支給するよう配慮すること」が84.9%

全体で最も回答が多かったのは、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、妊産婦、授乳中の方などのニーズを的確に把握し、適切に物資を支給するよう配慮すること」で84.9%でした。次に多かったのは「避難所に男女別のトイレや更衣室、授乳室等を設置すること」で83.7%となっています。

性別で見ると、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、妊産婦、授乳中の方などのニーズを的確に把握し、適切に物資を支給するよう配慮すること」では、女性86.2%に対し、男性84.4%、「避難所に男女別のトイレや更衣室、授乳室等を設置すること」では、女性85.7%に対し男性82.5%と、わずかに女性の回答が上回るものの、大きな差は見られませんでした。

「その他」では、「ペットの避難」や「避難所のプライバシー確保」などの回答がありました。

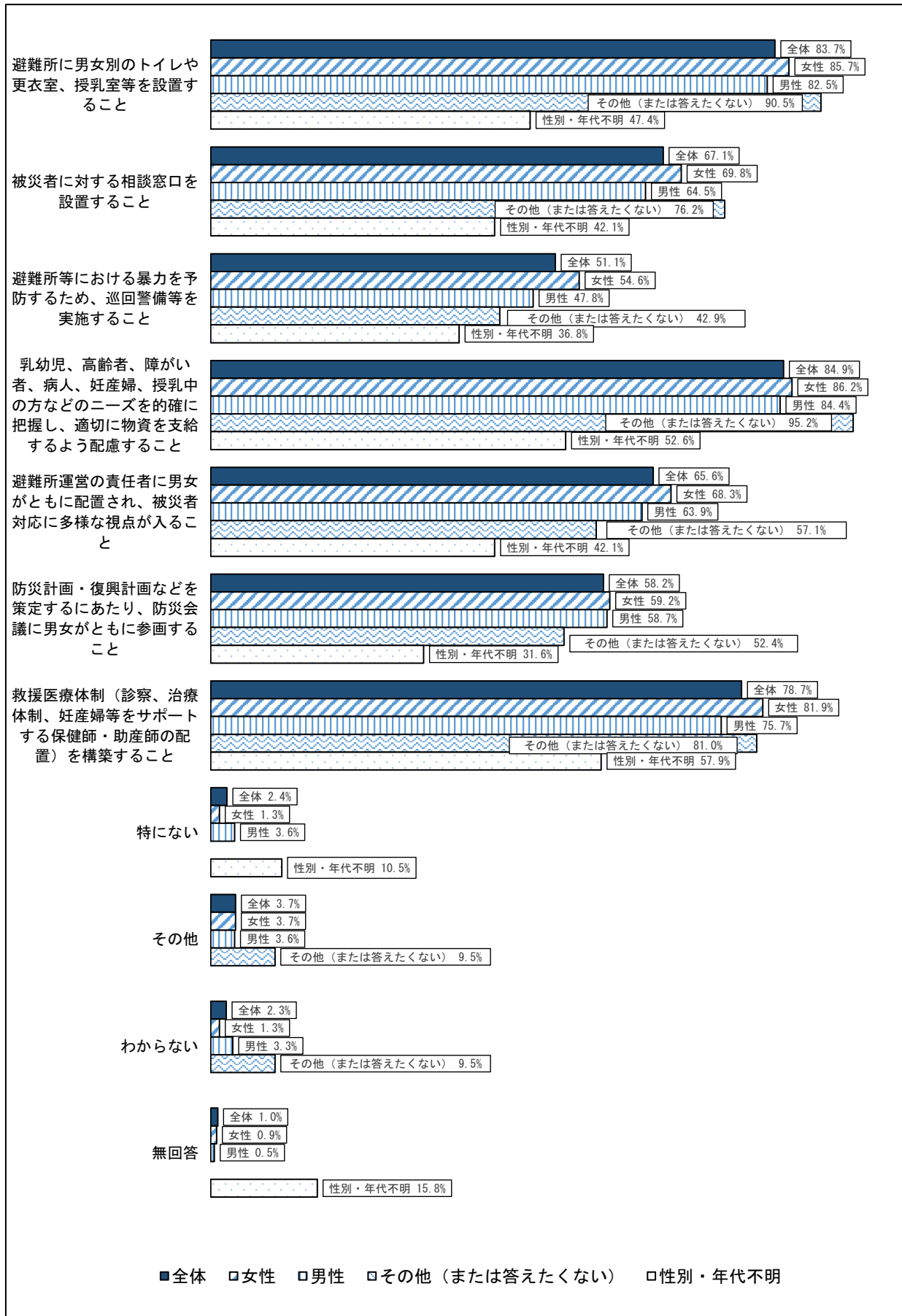
【全体】 n=869



その他の回答（記述分）

ペットの避難（6）、避難所のプライバシー確保（4）、男女だけでなく様々な立場の方が共に参画し、社会全体で取り組む（2）、感染症対策（2）、防災無線を聞こえやすくする（2）、適切な避難所の設置（2）

【性別】



男女の就業・仕事について

問9 あなたは、女性が職業をもつことについてどうお考えですか。（1つだけ選択）

1. 仕事を持ち、結婚や出産に関わらず続ける方がよい
2. 子育ての時期は仕事を辞め、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
3. 仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念する方がよい
4. 仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい
5. 仕事は持たない方がよい
6. その他()
7. わからない

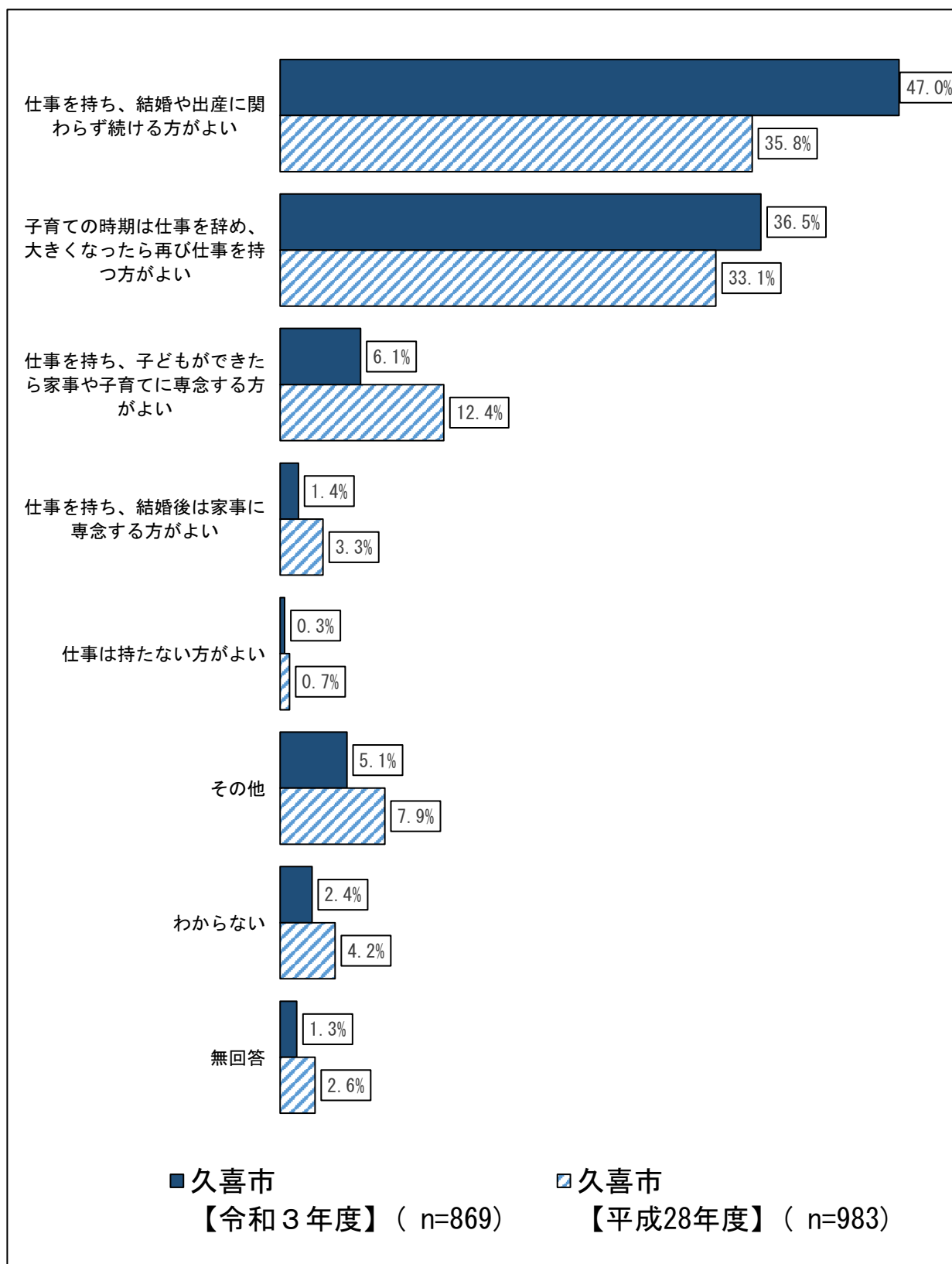
「仕事を持ち、結婚や出産に関わらず続ける方がよい」が、最も多い

全体では、「仕事を持ち、結婚や出産に関わらず続ける方がよい」が47.0%と最も多く、次いで「子育ての時期は仕事を辞め、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が36.5%の順となっています。

性・年代別で見ると、女性の10代、70代以上、男性の20代、70代以上、その他の60代では、「子育ての時期は仕事を辞め、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が最も多く、それ以外では「仕事を持ち、結婚や出産に関わらず続ける方がよい」が最も多い回答となっています。

平成28年度調査と比較すると、全体での最も多い回答は「仕事を持ち、結婚や出産に関わらず続ける方がよい」で同じですが11.2ポイント増加しています。また「仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念する方がよい」は、全体では6.3ポイント減少しています。

【全体・経年比較】



その他の回答（記述分）

個人の意思によって、自由に選択できるのがよい（8）、家庭にとって良い選択肢を選ぶとよい（5）、産休・育休制度があたりまえの環境（3）、ライフスタイルに合わせて、仕事を持ったり、家庭に入ったり、柔軟に対応するのがよい（2）

【性・年代別】

